

[illegible]

令和7年度版「小学 しょうしゃ 二年」年間指導計画・評価計画(案)

「支援」は、「B」に至らない児童に対する支援・援助の方法例。

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習活動	学習指導要領の内容	評価規準		
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4月	1	表紙裏①～1	町の 文字たんけん	○町の中には、いろいろな文字があることに気づき、文字や書写学習に対する関心を高めることができる。	○教科書を見て、「町の 文字たんけん」の写真や絵から文字を探す。 ○見つけた文字をノートに書く。 ○気づいたことを話し合う。	アイウ	B ：町の中にあるさまざまな文字に気づいている。 町の中にある文字をノートに書いている。 A ：町の中にあるさまざまな文字に、よく気づいている。 町の中にあるさまざまな文字をノートに書いている。 支援 ：文字が書かれている場所について知らせる。 カードに書く方法について説明する。	B ：町の中にあるさまざまな文字が何のために書かれているのか、考えている。 A ：町の中にあるさまざまな文字が何のために書かれているのか、よく考えている。 支援 ：文字が提示されていると便利である例について気づくようにする。	B ：町の中にあるさまざまな文字を探そうとしている。 A ：町の中にあるさまざまな文字を、粘り強く探そうとしている。 身のまわりには多くの文字があることに気づき、文字を意識的に見たり読んだりしている。 支援 ：文字はどんなところで見つけられるか、身近な場所を説明する。 ふだんの生活の中で見られる文字について、具体的に説明する。
	1	1～9	もくじ 学しゅうの めあて 1 はじめの 学しゅう ①文字を 書く しせい ②えんぴつの もち方 ③学しゅうの すすめ方 ④しょうしゃの 体そう	○1年生の書写学習で身につけたよい姿勢・鉛筆の持ち方、学習の進め方、点画の書き方を確認することができる。	○「よい しせいの 合いことば」「えんぴつの もち方の 合いことば」の唱え歌での書き方を確認する。 ○教科書を見て「学しゅうの すすめ方」を確かめる。 ○「しょうしゃの 体そう」に袋文字で例示されている文字を空書したり、水書用紙で書いてみたりする。 ○よい姿勢と鉛筆の持ち方で、硬筆で例示されている文字を練習する。	アイウ	B ：よい姿勢・鉛筆の持ち方がわかっている。 よい姿勢・鉛筆の持ち方で、点画の書き方を理解して書いている。 学習の進め方を理解している。 A ：よい姿勢・鉛筆の持ち方で書くことを理解している。 よい姿勢・鉛筆の持ち方で、点画の書き方をよく理解して書いている。 学習の進め方を、よく理解している。 支援 ：よい姿勢・鉛筆の持ち方で書くことの大切さについて理解を促し、ポイントを具体的に説明する。 点画の書き方について、「すうっ」「びたっ」などの声がけをしながら一緒に運筆の動作をする。 学習の進め方を常に確認できるように、各手順を黒板に貼っておく。	B ：よい姿勢・鉛筆の持ち方について考えている。 点画の書き方について運筆方法を考えている。 学習の進め方について、流れを考えている。 A ：自分の姿勢・鉛筆の持ち方の良しあしを考えている。 点画の書き方について、運筆方法をよく考えている。 学習の進め方について、流れをよく考えている。 支援 ：どこを正すと姿勢・鉛筆の持ち方がよくなるかを、基準に照らして説明する。 止めるところ、筆圧をかけるところなどに焦点化して説明する。 なぜ試し書きをするのか具体的に説明する。	B ：ふだんの書く場面でも、よい姿勢やよい持ち方で書こうとする意識をもっている。 他の文字を書く場面でも、点画の書き方に気をつけて書く意識をもっている。 A ：常に、よい姿勢・鉛筆の持ち方で書こうとする意識をもっている。 ふだんの書く場面でも、点画の書き方に気をつけて書く意識をもっている。 支援 ：よい姿勢・鉛筆の持ち方で書くことができるように意識づける。 書写の授業以外でも気をつけるように呼びかける。

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習活動	学習指導要領の内容	評価規準		
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
5月	3	10・11	2 かたかなの学しゅう 画の方こう	○片仮名の画の方向の違いを理解することができる。 ○片仮名の画の方向の違いに気をつけて、正しく書くことができる。 ○促音、長音、濁音、半濁音の書き方の書く位置を確かめて書くことができる。	○『マ』『ア』『ワ』『ク』『ソ』『ツ』『ン』『シ』を指でなぞりながら、書き方を確かめる。 ○教科書を見ないで、1年で学習した『マラソン』を試書し、教材文字を比べて話し合う。 ○「点」や「はらい」の方向の違いに気をつけて、鉛筆や水書用紙を使って練習する。 ○まとめ書きをして、試書と比べて発表し合う。 ○『ス』『ヌ』と『コ』『ユ』のを比べて、違いを話し合う。 ○促音・拗音を書く位置や、音引・濁点・半濁点の書き方を確かめる。 ○片仮名で書く言葉を探して、画の方向に気をつけて書く。	アイウ	B ：「はらい」の方向について理解している。 「はらい」の方向に気をつけて書いている。 A ：「はらい」の方向の違いを、よく理解している。 支援 ：自分が書きにくい文字について、正しい書き方と比べてみるができるようにする。	B ：払う方向の違いについて考えている。 A ：払う方向の違いについて、よく考えている。 支援 ：教科書のイラストなどを使って、払う方向の違いが確かめられるようにする。	B ：ほかの文字でも、片仮名の字形に気をつけて書こうとしている。 A ：片仮名の終筆と送筆に気をつけて、積極的に書こうとしている。 支援 ：教科書のイラストなどを使って、片仮名の言葉を書く活動に関心をもつようはたらきかける。
			【レッツ・トライ】 ①メモのとり方 —お話の聞きとりメモ	○話をよく聞いて、大事なことをメモすることができる。 ○字形を整えて、丁寧にまとめカードを書くことができる。	○『聞いたことをまとめたカード』の中で、『聞き取りメモ』に書いてある言葉に線を引く。 ○気づいたことを話し合う。 ○『聞いたことをまとめたカード』を視写する。 ○自己評価をする。	アイウ	B ：メモの取り方を理解している。 A ：メモの取り方を、よく理解している。 支援 ：線を引かなかった部分に着目し、メモを取るときに省略した内容に気づくよう促す。	B ：メモの取り方について考えている。 A ：メモの取り方について、よく考えている。 支援 ：教科書のメモを取るときに注意を参考にしよう指示する。	B ：メモの取り方に気をつけて書こうとしている。 A ：ほかの学習場面や日常生活でも、メモの取り方に気をつけて積極的に書こうとしている。 支援 ：メモの取り方を身につけると、学習場面や日常生活で生かせることを知らせる。
6月	3	12	【レッツ・トライ】 ②よこ書きの書き方 —算数のノート	○横書きの書き方や、数字の書き順と字形に気をつけて書くことができる。 ○他教科の学習や日常生活の中で、横書きの書き方に気をつけて書こうとする意欲をもつことができる。	○教科書の挿絵を利用して、横書きにする場合、拗音・促音、句読点は「3のへや」に書くことを確認する。 ○書く位置に気をつけて、教科書の文と数字を書く。	アイウ	B ：横書きの書き方を理解して書いている。 A ：横書きの書き方を、よく理解して書いている。 支援 ：数字の書き方についても、誤りやすい例をあげながら、正しい字形を確かめられるようにする。十字線を入れたます目用紙を使って、正しい位置を確かめられるようにする。	B ：縦書きの書き方との違いについて考えている。 A ：縦書きの書き方との違いについて、よく考えている。 支援 ：教科書を参照して、横書きの場合の拗音・促音などの正しい位置が確かめられるようにする。	B ：横書きの書き方について知り、学習への意欲をもっている。ほかの言葉でも、横書きの書き方に気をつけて書こうとする意識をもっている。 A ：横書きの書き方について知り、積極的に学習に取り組もうとしている。常に横書きの書き方に気をつけて書こうとする意識をもっている。 支援 ：拗音、促音、句読点は、ます目の中のどの位置に書くのか、確かめられるようにする。学習した以外の文字でも、横書きの書き方に気をつけて書く意識をもつことができる。

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習活動	学習指導要領の内容	評価規準		
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
6・7月	2	14・15	3 かん字の 学しゅう ①書きじゅん	○書き順の原則（横画から書く，長い縦画から書く）を理解することができる。 ○書き順に従い，文字を正しく書くことができる。 ○似ている部分のある文字を，書き順に従い，正しく書くことができる。	○教科書を見ないで，片仮名五十音を書く。 ○正しい書き順や外形を確認する。 ○誤りやすい書き順や字形の片仮名を書く。 ○片仮名で書く言葉を確認し，言葉集めをして書く。	アイウ	B ：片仮名の正しい書き順や字形について理解している。 A ：片仮名の正しい書き順や字形について，よく理解している。 支援 ：まちがえやすい書き順や字形について具体的に説明する。	B ：片仮名の書き順や字形について考えている。 A ：片仮名の書き順や字形の良しあしについて，よく考えている。 支援 ：拡大文字や色分け文字などを使って，正しい書き順や字形が確かめられるようにする。	B ：ほかの文字でも，書き順の原則に気をつけて書こうとする意識をもっている。 A ：片仮名の表を見ながら，片仮名の言葉を書く活動に，積極的に取り組もうとしている。 支援 ：これまでの学習を想起させ，書き順や字形に気をつけて書くよう呼びかける。
7～9月	4	16～19	②画の 方こう 文字を くらべて話し合おう	○「はらい」「おれ」「まがり」「そり」「点や画」の方向の違いを理解することができる。 ○「はらい」「おれ」「まがり」「そり」「点や画」の方向に気をつけて，正しく書くことができる。	○教科書を見ないで『人』『月』『千』を書く。 ○『人』『大』『月』『千』を指でなぞりながら，「はらい」の方向を確かめる。 ○教科書を見ないで，『会』『犬』『赤』『手』を試書し，教材文字を比べて話し合う。 ○画の方向の違いに気をつけて，鉛筆や水書用紙を使って練習する。 ○まとめ書きをして，試書と比べて発表し合う。 ○学習した文字を使った言葉を書く。	アイウ	B ：「はらい」「おれ」「まがり」「そり」「点や画」の方向の違いについて理解している。 「はらい」「おれ」「まがり」「そり」「点や画」の方向に気をつけて，正しく書いている。 A ：「はらい」「おれ」「まがり」「そり」「点や画」の方向の違いについて，よく理解している。 「はらい」「おれ」「まがり」「そり」「点や画」の方向に気をつけて，字形を整えて書いている。 支援 ：水書用紙などを使って，画の方向の違いを比べてみるができるようにする。	B ：「はらい」「おれ」「まがり」「そり」「点や画」の方向の違いについて考えている。 A ：「はらい」「おれ」「まがり」「そり」「点や画」の方向の違いについて，よく考えている。 支援 ：拡大文字などを使って，画の方向の違いについて確かめられるようにする。	B ：「はらい」「おれ」「まがり」「そり」「点や画」の方向に気をつけて書こうとしている。 ほかの文字でも画の方向に気をつけて書こうとする意識をもっている。 A ：「はらい」「おれ」「まがり」「そり」「点や画」の方向に気をつけて，積極的に書こうとしている。 常に，画の方向の違いに気をつけて書こうとする意識をもっている。 支援 ：教科書の図版を使って，画の方向について関心を高めるよう促す。 ほかの文字でも，画の方向の違いがあることに気づくようにはたらきかける。
9・10月	3	20・21	③画の 長さ、画と画との 間	○画の長さの違いと，画と画との間のとり方を理解することができる。 ○画の長さの違いと，画と画との間のとり方に気をつけて，正しく書くことができる。	○『山』『青』の一番長い画を指でなぞり，画の長さを確認める。 ○教科書を見ないで『生』『出』『名』を書き，教材文字を比べて話し合う。 ○画の長さに気をつけて，『生』『出』『名』を練習する。 ○まとめ書きをして，試書と比べて発表し合う。（画の長さ） ○教科書の『貝』の文字を比較し，画と画との間のあけ方について確かめる。	アイウ	B ：画の長さの違いについて理解している。 画の長さに気をつけて書いている。 画と画との間のとり方について理解している。 画と画との間のとり方に気をつけて書いている。 A ：画の長さの違いについて，よく理解している。 画の長さに気をつけて，字形を整えて書いている。 画と画との間のとり方について，よく理解している。 画と画との間のとり方に気をつけて，字形を整えて書いている。	B ：画の長さの違いについて考えている。 画と画との間のとり方について考えている。 A ：画の長さの違いについて，よく考えている。 画と画との間のとり方について，よく考えている。	B ：ほかの文字でも画の長さに気をつけて書こうとする意識をもっている。 ほかの文字でも画と画との間のとり方に気をつけて書こうとする意識をもっている。 A ：常に画の長さの違いに気をつけて書こうとする意識をもっている。 常に画と画との間のとり方に気をつけて書こうとする意識をもっている。

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習活動	学習指導要領の内容	評価規準		
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
					○教科書を見ないで『春』『思』『顔』を書き、教材文字を比べて話し合う。 ○画と画との間のあけ方に気をつけて『春』『思』『顔』を練習する。 ○まとめ書きをして、試書と比べて発表し合う。 ○学習した文字を使った言葉を書く。(画と画との間)		支援：拡大文字などを使って、画の長さや画と画との間のとり方を比べてみることができるようにする。どの画を長く書くのかを具体的に説明する。画と画との間のとり方について、具体的に説明する。	支援：拡大文字などを使って、画の長さや画と画との間のとり方について確かめられるようにする。	支援：学習した以外の文字でも、画の長さ、画と画との間のとり方に気をつけて書くよう、仲間の漢字を示して意識づける。
10月	2	22・23	④画のつき方と交わり方	○画のつき方と交わり方を理解することができる。 ○画のつき方と交わり方に気をつけて、正しく書くことができる。	○教科書を見ないで『作文』を書く。 ○試書と教材文字を比べて話し合う。 ○画のつき方・交わり方を理解する。 ○画のつき方・交わり方に気をつけて練習する。 ○学習した文字を使った言葉を書く。	アイウ	B：画のつき方・交わり方について理解している。画のつき方・交わり方に気をつけて書いている。 A：画のつき方・交わり方について、よく理解している。正しい画のつき方・交わり方で、字形を整えて書いている。 支援：拡大文字などを使って、画と画とがつくところ・交わるところや、画のつき方・交わり方を具体的に説明する。教科書の図版を参照しながら、画のつき方・交わり方について確かめられるようにする。	B：画のつき方・交わり方について考えている。 A：画のつき方・交わり方について、よく考えている。 支援：拡大文字などを使って、画のつき方・交わり方が確かめられるようにする。	B：ほかの文字でも、画のつき方・交わり方に気をつけて書こうとする意識をもっている。 A：常に画のつき方・交わり方に気をつけて書こうとする意識をもっている。 支援：拡大文字などを使って、画のつき方・交わり方に気づくようにはたらかける。学習した以外の文字でも、画のつき方・交わり方に気をつけて書くよう、仲間の漢字を示して意識づける。
10・11月	3	24・25	⑤文字の中心	○文字の中心（縦画が中心にある文字、書き出しが中心の文字など）を理解することができる。 ○文字の中心に気をつけて、正しく書くことができる。	○教科書を見ないで『水』『当』を書く。 ○『水』『当』の中心をなぞり、文字の中心を理解する。 ○文字の中心に気をつけて練習する。 ○文字の中心に気をつけて、学習した文字を使った言葉や教科書の文章を書く。	アイウ	B：文字の中心について理解している。文字の中心に気をつけて、正しく書いている。 A：文字の中心について、よく理解している。文字の中心に気をつけて、字形を整えて書いている。 支援：文字の中心がわかりやすい文字を例にあげて理解を促す。中心線があるます目に書くことで、自分の書いた文字について中心を確かめられるようにする。	B：文字の中心について考えている。 A：文字の中心について、よく考えている。 支援：拡大文字などを使って、文字の中心にあたる部分について確かめられるようにする。	B：文字の中心に気をつけて書いている。ほかの書写場面でも、文字の中心に気をつけて書こうとする意識をもっている。 A：文字の中心に気をつけて、字形を整えて書いている。常に文字の中心に気をつけて書こうとする意識をもっている。 支援：フェルトペンの文字や拡大文字などを使って、文字の中心になる部分を指でなぞるようにする。書写の授業以外でも、文字の中心に気をつけて書くよう意識づける。

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習活動	学習指導要領の内容	評価規準		
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	適時	26	【知りたい 文字のせかい】 何の 形から できた かん字かな	○動物の形からできた漢字があることを知り,文字に対する興味・関心を高めることができる。	○教科書を読み,漢字の成り立ちを知る。 ○それぞれの文字を書くときの留意点(方向,長さなど)を確認し,練習する。 ○学習した文字を使って言葉を書く。	アイウ	B : 自然や動物の形からできた漢字があることを知っている。 学習した漢字について,字形に気をつけて書いている。 A : 自然や動物の形からできた漢字があることを理解している。 学習した漢字について,字形を整えて書いている。 支援 : 漢字の成り立ちを視覚的に捉えられるようにする。 今までの学習を生かして,丁寧に書くように助言する。	B : 漢字の成り立ちについて考えている。 A : 漢字の成り立ちについて,よく考えている。 支援 : 教科書にある,漢字の成り立ちクイズに取り組むなど,漢字の成り立ちについて考えるよう支援する。	B : ほかの漢字についても,その成り立ちについて関心をもっている。 A : ほかの漢字についても,その成り立ちについて関心をもって調べている。 支援 : ほかの文字を例示することで,漢字の成り立ちについて関心が高まるようにはたらきかける。
11・12月	2	27	⑥年がじょうと書きぞめ ●年がじょう	○年賀状の書き方を理解し,年賀状を書こうとする意欲をもつことができる。 ○字形や中心に気をつけて,年賀状を丁寧に書くことができる。	○はがきの書き方を知る。 ○基準に気をつけて,はがきサイズの練習用紙に練習する。 ○文字を書く位置や大きさについて話し合う。 ○学習したことを生かして,年賀状を丁寧に書く。	アイウ	B : 年賀状の書き方について理解している。 年賀状の書き方を理解して書いている。 字形や中心について理解している。 字形や中心に気をつけて書いている。 A : 年賀状の書き方について,よく理解している。 字形や中心について,よく理解している。 年賀状の書き方をよく理解して書いている。 中心に気をつけて,字形を整えて書いている。 支援 : 相手に確実に届けるために正確に書くことを助言する。 行の中心が揃えにくい場合は,鉛筆で中心線を薄く書き,後で消すようにはたらきかける。	B : 年賀状の書き方について考えている。 字形や中心について考えている。 A : 年賀状の書き方について,よく考えている。 字形や中心について,よく考えている。 支援 : 教科書の教材を参照しながら,はがきの基本的な書き方について確認できるようにする。	B : 年賀状を書く活動に,積極的に取り組もうとしている。 字形や中心に気をつけて書こうとしている。 書写の授業以外でも,字形や中心に気をつけて書こうとする意識をもっている。 A : 年賀状を書く活動に,すすんで取り組もうとしている。 中心に気をつけて,字形を整えて丁寧に書こうとしている。 常に書写の授業以外でも,字形や中心に気をつけて書こうとする意識をもっている。 支援 : これまで学習してきた,字形と中心に気をつけて取り組むようはたらきかける。 ふだんの生活の中でも気をつけて書くよう意識づける。
	3	28・29	●書きぞめ	○句読点の書き方のきまりを確認したり,フェルトペンの持ち方を理解したりして,書きぞめを書こうとする意欲をもつことができる。 ○鉛筆やフェルトペンを正しく持ち,字形や中心に気をつけて,丁寧に書くことができる。	○教科書にある「お正月のできごと」の文を書く。 ○段落の文頭と句読点の書き方のきまりを確認する。 ○姿勢や鉛筆の持ち方に気をつけて練習する。 ○教科書を見ないで『元気な子』を書く。 ○試書と教材文字を比べて話し合う。 ○フェルトペンを正しく持ち,字形や中心に気をつけて練習する。	アイウ	B : 書き出しの位置や,句読点を書く位置,字形や文字の中心について理解している。 書き出しの位置や,句読点を書く位置に気をつけて正しく書いている。 字形や文字の中心に気をつけて正しく書いている。 A : 書き出しの位置や,句読点を書く位置,字形や文字の中心について,よく理解している。 書き出しの位置や,句読点を書く位置を正しく書いている。 文字の中心に気をつけて,字形を整えて書いている。	B : 書き出しの位置や,句読点を書く位置について考えている。 字形や文字の中心について考えている。 A : 書き出しの位置や,句読点について,よく考えている。 字形や文字の中心について,よく考えている。 支援 : 教科書の教材を参照しながら,はがきの基本的な書き方について確認できるようにする。	B : 書きぞめに対して,意欲的に取り組もうとしている。 字形や文字の中心に気をつけて書こうとしている。 ほかの文字でも書き出しの位置や,句読点を書く位置,書き順や字形に気をつけて書こうとする意識をもっている。 A : 書きぞめに対して,積極的に取り組もうとしている。 文字の中心に気をつけて,字形を整えて書こうとしている。 常に書き出しの位置や,句読点を書く位置,書き順や字形に気をつけて書こうとする意識をもっている。

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習活動	学習指導要領の内容	評価規準		
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
					○ほかにもお正月の言葉を書く。		支援 ：自分が書いた文字について、正しい文字と比べてみることができるようにする。 今までの学習を想起しながら、字形や文字の中心に気をつけるよう呼びかける。	支援 ：今までに学習した内容を確認められるようにする。	支援 ：今までの学習を想起しながら、苦手とする部分について重点的に取り組むようはたらきかける。 学習した以外の文字でも気をつけて書くよう意識づける。
1月	2	30・31	⑦文字の形	○文字の外形の違いを理解することができる。 ○文字の外形に気をつけて、正しく書くことができる。	○教科書を見ないで『図工』を書く。 ○『図工』のまわりを鉛筆で囲み、外形を理解する。 ○文字の外形に気をつけて練習する。 ○ほかの文字でも外形に気をつけて書く。	アイウ	B ：文字の外形の違いについて理解している。 文字の外形に気をつけて書いている。 A ：文字の外形の違いについてよく理解している。 文字の外形の違いに気をつけて、字形を整えて書いている。 支援 ：おおよその形を身近なものにたとえて、どのような形かを具体的に説明する。 外形が書いてある練習用紙の中に文字を書き、おおよその形を確認められるようにする。	B ：文字の外形の違いについて考えている。 A ：文字の外形の違いについて、よく考えている。 支援 ：文字のまわりを鉛筆で囲み、おおよそどのような形になるか確かめられるようにする。	B ：文字の外形の違いに気づき、学習への意欲をもっている。 ほかの文字でも文字の形に気をつけて書こうとする意識をもっている。 A ：文字の外形の違いに気づき、進んで学習に取り組んでいる。 常に文字の形の違いに気をつけて書こうとする意識をもっている。 支援 ：おおよその形を身近なものにたとえて、外形の違いが確かめられるようにする。 ほかの文字でも、文字の形の違いがあることに気づくようにはたらきかける。
1・2月	4	32・33	【書いてつたえ合おう】	○学習したことを生かして、筆記用具や用紙を選び、丁寧に書くことができる。 ○これまで学習したことを生かして、丁寧に書くことができる。	○招待状に書く内容を確認し、縦書き・横書きの形式や用紙などを選ぶ。 ○姿勢や筆記用具の持ち方、字形に気をつけて書く。 ○友達が書いた招待状のよさを見つけて、伝え合う。(招待状) ○本の紹介カードに書く内容をまとめる。 ○姿勢や筆記用具の持ち方、字形に気をつけて書く。 ○友達が書いた本の紹介カードのよさを見つけて、メッセージを書く。(本の紹介カード)	アイウ	B ：横書きのカードの書き方について理解している。 本の紹介カードの書き方について理解している。 字形や書き順に気をつけて書いている。 A ：横書きのカードの書き方について、よく理解している。 本の紹介カードの書き方について、よく理解している。 字形や書き順に気をつけて、丁寧に書いている。 支援 ：教科書の作例を提示するなどして、書き方について理解を促す。 巻末漢字表などを活用し、字形や書き順を確認められる。	B ：招待状の書き方について考えている。 本の紹介カードの書き方について考えている。 A ：招待状の書き方について、よく考えている。 本の紹介カードの書き方について、よく考えている。 支援 ：教科書の作例を提示するなどして、書き方について考えるよう促す。	B ：ほかの学習場面においても、相手のことを考えて丁寧に書く意識をもっている。 A ：常に相手のことを考えて丁寧に書く意識をもっている。 支援 ：招待状を贈りたい相手と、伝える内容について考えることができるよう、具体例をもとに促す。 ほかの学習場面においても、字形に気をつけて丁寧に書くよう意識づける。

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習活動	学習指導要領の内容	評価規準		
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
3月	2	34・35	学しゅうの まとめ	○1年間の書写学習を振り返り，学習した内容を確認することができる。 ○学習したことを生かして，時間割りの文字を正しく書くことができる。 ○字形や書く位置に気をつけて，丁寧に書くことができる。	○教科書の「ふりかえってみよう」を見て，学習したことを確認する。 ○字形に気をつけて時間割りを書く。 ○行頭や句読点の位置に気をつけて，『かさこじぞう』の一部を書く。	アイウ	B：字形や書く位置について理解している。 字形や書く位置に気をつけて，丁寧に書いている。 A：字形や書く位置について，よく理解している。 書く位置に気をつけて，字形を整えて書いている。 支援：字形や書く位置について確かめられるようはたらきかける。 字形や書く位置について確かめられるようはたらきかける。	B：今まで学習した内容について考えている。 A：今まで学習した内容について，よく考えている。 支援：今まで学習した内容を，教科書を見ながら想起するようはたらきかける。	B：学習したことを生かして，意欲的に書こうとしている。 ほかの文章でも，書く位置に気をつけて，字形を整えて書こうとする意識をもっている。 A：学習したことを生かして，積極的に書こうとしている。 常に書く位置に気をつけて，字形を整えて書こうとする意識をもっている。 支援：今まで学習した内容について，グループで話し合うよう促す。 学習した以外の文章でも，書く位置に気をつけて，字形を整えて書くよう意識づける。
		36	【はってん】 三年生から 毛ひつの 学しゅうが はじまるよ。		○3年生の教科書を用意して，これから行う毛筆学習について，用具の説明などを行う。 ○班で1セット程度，毛筆用具が準備できれば，筆で自由な線を書く活動を行う。	アイウ			B：3年生で学習する毛筆学習について，説明をよく聞いている。 A：3年生で学習する毛筆学習について，説明をよく聞き，質問をしている。 支援：筆記用具の違いに気づくよう，書き比べて確かめられるようにする。
	適時	37～39	【かん字の ひょう】 二年生で 学しゅうする かん字 一年生で 学しゅうした かん字	○2年生で学習した内容（書き順，画の方向，画の長さ，画と画との間，画のつき方・交わり方，文字の中心，文字の形）を確認することができる。 ○1年生で学習したの終筆（「とめ」「はね」「はらい」）や送筆（「おれ」「まがり」「そり」）などの書き方を確かめることができる。 ○1年生で学習した字形の整え方や書き順などを確かめることができる。	○書き順のきまりと，字形の整え方を確認する。 ○漢字表から探した漢字について，画の方向，画の長さ，画間，画のつき方・交わり方，文字の中心，外形に気をつけて練習する。 ○学習した漢字を使って言葉を書く。	アイウ	B：始筆・送筆・終筆の書き方や画の長短・方向について理解している。 始筆・送筆・終筆などの違いによって，漢字の仲間さがしをしている。 A：始筆・送筆・終筆の書き方や画の長短・方向，字形について，よく理解している。 始筆・送筆・終筆などの違いによって，漢字を正しくグループ分けしている。 支援：拡大文字などを使って，始筆・送筆・終筆の書き方や，画の長短・方向，字形などを比べてみることができるようにする。 どの文字のどの部分に着目して探すか，具体的に説明する。	B：始筆・送筆・終筆の書き方や，画の長短・方向について考えている。 A：始筆・送筆・終筆の書き方や，画の長短・方向，字形の良しあしを考えている。 支援：拡大文字などを使って，始筆・送筆・終筆の正しい書き方や字形などが確かめられるようにする。	B：始筆・送筆・終筆の書き方や，画の長短・方向などに気をつけて確かめようとしている。 ほかの文字でも始筆・送筆・終筆の書き方や画の長短・方向，字形に気をつけようとする意識をもっている。 A：始筆・送筆・終筆の書き方や，画の長短・方向などに気をつけて，意欲的に書こうとしている。 常に始筆・送筆・終筆の書き方や画の長短・方向，字形に気をつけようとする意識をもっている。 支援：拡大文字などを使って，始筆・送筆・終筆の書き方などに気をつけるよう呼びかける。 学習した以外の文字でも，気をつけるよう意識づける。

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習活動	学習指導要領の内容	評価規準		
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
		40・41	【ひらがなの ひょう・かたかなの ひょう】	○平仮名・片仮名の書き順や字形，拗音・促音・音引きなどの書くきまりを確認することができる。 ○平仮名・片仮名の言葉を探す活動に，意欲的に取り組むことができる。	○「ひらがなの ひょう」「かたかなの ひょう」を見て，書き順や字形を確認する。 ○長音，拗音，促音，句読点，「かぎ」の書くきまりを確認する。 ○教科書のイラストを参考にしながら，片仮名の言葉を探して書く。	アイウ	B ：平仮名と片仮名の筆順や字形について理解している。 A ：平仮名と片仮名の筆順や字形について，よく理解している。 支援 ：ふだん，字形が整えにくい文字に関して，教科書を見ながら確認できるようにする。	B ：平仮名と片仮名の字形や筆順について考えている。 A ：平仮名と片仮名の字形や筆順について，よく考えている。 支援 ：間違いやすい字形について，重点的に確かめられるように呼びかける。	B ：平仮名と片仮名の筆順や字形を確かめている。 片仮名の言葉を探している。 ほかの片仮名でも筆順や字形を確かめようとする意識をもっている。 A ：平仮名と片仮名の筆順や字形を，積極的に確かめている。 片仮名の言葉を，積極的に探している。 常に筆順や字形を確かめて，丁寧に書くようとする意識をもっている。 支援 ：間違いやすい筆順について，重点的に確かめられるように呼びかける。 書写の授業以外でも，常に気をつけるよう意識づける。

令和7年度版「小学 書写 三年」年間指導計画・評価計画（案）

「支援」は、「B」に至らない児童に対する支援・援助の方法例。

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習活動	学習指導要領の内容	評価規準		
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4月	2	表紙裏①～10	毛筆の学習が始まるよ 学習の進め方 目次 1 はじめの学習 1 毛筆用具の名前と、おき方やあつかい方 2 よいしせいと筆の持ち方 3 筆の「ほ」のやわらかさ 4 力の入れ方（筆圧） 5 あとかたづけ	○1年間の学習内容や学習の進め方について知り，書写学習に対する意欲をもつことができる。 ○用具の扱い方や筆の持ち方について知り，よい姿勢や持ち方を意識して書くことができる。 ○筆の穂の柔らかさや筆圧を意識して，いろいろな太さの線を書くことができる。	○なぜ毛筆で学習するのかを知る。 ○学習の進め方について知る。 ○教師の説明を聞いて，毛筆用具の名前を覚え，扱い方を知る。 ○姿勢図を見て，よい姿勢・筆の持ち方を知る。 ○後片づけの仕方を知る。	アイウ	B ：毛筆で学習する意味や学習の進め方について理解している。 用具の扱い方，姿勢，筆の持ち方を理解している。 用具の扱い方，姿勢，筆の持ち方が身についている。 A ：毛筆で学習する意味や学習の進め方について，よく理解している。 用具の扱い方，姿勢，筆の持ち方を，よく理解している。 用具の扱い方，姿勢，筆の持ち方が，よく身についている。 支援 ：教科書の姿勢図を確認し，「よいしせいの合い言葉」を一斉に唱えながら確かめられるようにする。 用具の扱い方やよい姿勢，筆の持ち方のポイントを具体的に説明する。	B ：毛筆で学習する意味や学習の進め方の流れについて考えている。 用具の扱い方，姿勢，筆の持ち方，筆の扱い方について考えている。 A ：毛筆で学習する意味や学習の進め方について，よく考えている。 用具の扱い方，姿勢，筆の持ち方，筆の扱い方の良しあしについて考えている。 支援 ：どこを正すと姿勢，筆の持ち方がよくなるのかを，基準に照らしてわかるようにする。	B ：毛筆書写に関心をもち，取り組もうとしている。 用具を丁寧に取り扱い扱っている。 よい姿勢や筆の持ち方を身につけようとしている。 ほかの書写場面でも，よい姿勢やよい持ち方で書こうとする意識をもっている。 A ：毛筆書写に積極的に取り組もうとしている。 用具を適切に取り扱っている。 よい姿勢や筆の持ち方を，積極的に身につけようとしている。 常によい姿勢やよい持ち方で書こうとする意識をもっている。 支援 ：用具の配置図や姿勢図，筆の持ち方の写真と比べて，自分でチェックできるようにする。 書写の授業以外でも気をつけるように呼びかける。
				○よい姿勢・よい持ち方で，いろいろな線を書く。 ○途中で墨をつけずに，長い線を書く。 ○細い線と太い線を書き，どちらの方が力が入っているか考える。 ○筆圧について理解する。 ○力の入れ方を変えて書き，力の入れ方を変えると，線の太さが変わること気づく。	アウ		B ：穂の柔らかさと筆圧について知っている。 筆圧に気をつけて，いろいろな太さの線を書いている。 A ：穂の柔らかさと筆圧について，理解している。 筆圧を調整しながら，いろいろな太さの線を書いている。 支援 ：教科書の紙面を参照しながら，筆圧のかけ方について理解を促す。 筆の状態を確認し，運筆がしやすい状態に整えるようにする。	B ：筆の穂の柔らかさや筆圧について考えている。 A ：筆の穂の柔らかさや筆圧について，よく考えている。 支援 ：教科書紙面を参照しながら，筆圧を三段階でとらえて，力の入れ方と太さを確かめられるようにする。	B ：筆の穂の柔らかさや筆圧を意識して，いろいろな線を書く活動に取り組もうとしている。 ほかの書写場面でも，筆の穂の柔らかさや筆圧を意識して書こうとする意識をもっている。 A ：筆の穂の柔らかさや筆圧を意識して，いろいろな線を書く活動に，積極的に取り組もうとしている。 常に筆の穂の柔らかさや筆圧を意識して書こうとする意識をもっている。 支援 ：筆の状態を確認し，運筆がしやすい状態に整えるようにする。 書写の授業以外でも気をつけるように呼びかける。

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習活動	学習指導要領の内容	評価規準		
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
5月	2～3	11～13	2「横画」の筆使い『二』	○「横画」の筆使い（始筆・送筆・終筆）について理解することができる。 ○「横画」の筆使いに気をつけて、字形を整えて書くことができる。 ○「横画」の書き方を確かめて、硬筆で字形を整えて書くことができる。	○『二』を硬筆や毛筆で試書する。 ○試書と教科書の文字を比べて、気をつけることを見つける。 ○教科書の「たしかめよう」の例示から、「始筆」「送筆」「終筆」の穂先の向きと筆圧を理解する。 ○穂先の向きと穂先の通り道に気をつけて、『二』を書く。 ○『二』を硬筆や毛筆でまとめ書きする。 ○目標に沿って、自己評価をする。 ○巻末漢字表などから「横画」のある漢字を探して書く。	アウ	B ：「横画」の筆使いについて理解している。 「横画」の筆使いに気をつけて書いている。 A ：「横画」の筆使いについてよく理解し、字形を把握している。 「横画」の筆使に気をつけて、字形を整えて書いている。 支援 ：拡大文字などを使って、始筆・送筆・終筆の筆使いが視覚的に理解できるようにする。 始筆・送筆・終筆の動作を「とん」「すうっ」などの言葉で表し、教科書のイラストでイメージをもちながら理解できるようにする。	B ：「横画」の筆使いについて考えている。 A ：「横画」の筆使いの良しあしを考えている。 支援 ：朱墨や薄墨を使って、穂先の向きや通り道が確かめられるようにする。	B ：「横画」の筆使いに気をつけて、正しく書こうとしている。 ほかの文字や硬筆でも「横画」に気をつけて書こうとする意識をもっていない。 A ：「横画」の筆使いに気をつけて、字形を整えて書こうとしている。 常に「横画」に気をつけて書こうとする意識をもっている。 支援 ：拡大文字などを使って、「横画」の始筆・送筆・終筆に気をつけるよう呼びかける。 学習した以外の文字でも、「横画」に気をつけて書くよう呼びかける。
6月	2	14・15	3「たて画」の筆使い『土』	○「たて画」の筆使い（始筆・送筆・終筆）について理解することができる。 ○「たて画」の筆使いに気をつけて、字形を整えて書くことができる。 ○「たて画」の書き方を確かめて、硬筆で字形を整えて書くことができる。	○『土』を硬筆や毛筆で試書する。 ○試書と教科書の文字を比べて、気をつけることを見つける。 ○穂先の向きと通り道を理解する。 ○「たて画」の筆使いに気をつけて、『土』を書く。 ○『土』を硬筆や毛筆でまとめ書きする。 ○目標に沿って、自己評価をする。 ○巻末漢字表などから「たて画」のある漢字を探して書く。	アウ	B ：「たて画」の筆使いについて理解している。 「たて画」の筆使いに気をつけて書いている。 A ：「たて画」の筆使いについてよく理解し、字形を把握している。 「たて画」の筆使いに気をつけて、字形を整えて書いている。 支援 ：拡大文字などを使って、始筆・送筆・終筆の筆使いが視覚的に理解できるようにする。 始筆・送筆・終筆の動作を「とん」「すうっ」などの言葉で表し、教科書のイラストでイメージをもちながら理解できるようにする。	B ：「たて画」の筆使いについて考えている。 A ：「たて画」の筆使いの良しあしを考えている。 支援 ：朱墨や薄墨を使って、穂先の向きや通り道が確かめられるようにする。	B ：「たて画」の筆使いに気をつけて、正しく書こうとしている。 ほかの文字や硬筆でも、「たて画」に気をつけて書こうとする意識をもっている。 A ：「たて画」の筆使いに気をつけて、字形を整えて書こうとしている。 常に「たて画」に気をつけて書こうとする意識をもっている。 支援 ：拡大文字などを使って、「たて画」の始筆・送筆・終筆に気をつけるよう呼びかける。 学習した以外の文字でも、「たて画」に気をつけて書くよう呼びかける。
	適時	16	【知りたい 文字の世界】 筆について知ろう	○さまざまな筆があることを知り、興味・関心を高めることができる。	○教科書を見て、筆の特性や作り方について知る。 ○筆について興味をもったことを調べる。 ○調べたことを発表する。	アウ			B ：筆および筆で書くことに関心をもっている。 ふだんの授業においても、筆を大切に扱う意識をもっている。 A ：筆および筆で書くことに関心を持ち、積極的に調べようとしている。 ふだんの授業においても、筆を大切に扱う意識をもち、実践している。 支援 ：筆の作り方や材料に関するクイズを作成するなどして、興味・関心を高めるようにする。

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習活動	学習指導要領の内容	評価規準		
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
6・7月	3	17～19	4「はらい」の筆使い『大』	○左右の「はらい」の筆使いの違いを理解することができる。 ○左右の「はらい」に気をつけて、字形を整えて書くことができる。 ○「はらい」の書き方を確かめて、硬筆で字形を整えて書くことができる。	○『大』を硬筆や毛筆で試書する。 ○試書と教科書の文字を比べて、気をつけることを見つける。 ○「左はらい」と「右はらい」の筆圧のかけ方を理解する。 ○「はらい」の筆使いに気をつけて、『大』を書く。 ○『大』を硬筆や毛筆でまとめ書きする。 ○目標に沿って、自己評価をする。 ○巻末漢字表などから「はらい」のある漢字を探して書く。	アウ	B：左右の「はらい」の筆使いの違いについて理解している。 左右の「はらい」の筆使いに気をつけて書いている。 A：左右の「はらい」の筆使いの違いについてよく理解し、筆圧について把握している。 左右の「はらい」の筆使いに気をつけて、字形を整えて書いている。 支援：力の入れ方（筆圧）について3段階で示して、理解できるようにする。 筆の入れ方を確かめるとともに、姿勢、執筆などの基礎・基本を確かめられるようにする。	B：左右の「はらい」の筆使いについて考えている。 A：左右の「はらい」の筆使いの良さあしを考えている。 支援：朱墨や薄墨を使って、穂先の向きや通り道を確認められるようにする。	B：左右の「はらい」の筆使いに気をつけて、正しく書こうとしている。 A：左右の「はらい」の筆使いに気をつけて、字形を整えて書こうとしている。 常に左右の「はらい」の書き方に気をつけて書こうとする意識をもっている。 支援：拡大文字などを使って、「はらい」の始筆・送筆・終筆に気をつけるよう呼びかける。 学習した以外の文字でも、左右の「はらい」の書き方に気をつけて書くよう呼びかける。
		20	＜こう筆の学習＞「はらい」	○「はらい」の方向を理解することができる。 ○「はらい」の方向に気をつけて、硬筆で字形を整えて書くことができる。	○『人』『大』『木』を硬筆で書く。 ○毛筆で学習した筆圧や「はらい」の方向について確かめる。 ○「はらい」の方向の違いや筆圧に気をつけて、「はらい」のある漢字や言葉を書く。 ○目標に沿って、自己評価をする。 ○巻末漢字表などから「はらい」のある漢字を探して書く。	ア	B：左右の「はらい」の違いについて理解している。 左右の「はらい」の方向の違いに気をつけて書いている。 A：左右の「はらい」の違いや、さまざまな長さの「はらい」について、よく理解している。 左右の「はらい」の方向の違いに気をつけて、字形を整えて書いている。 支援：拡大文字や分解文字などを使って、「はらい」の方向の違いが視覚的に理解できるようにする。 左右の「はらい」の違いを中心とした書写カードを添削する。	B：左右の「はらい」の方向の違いについて考えている。 A：左右の「はらい」の方向の違いや、さまざまな長さの「はらい」について、よく考えている。 支援：それぞれの「はらい」の方向がどのように違うのか、具体的な言葉で説明できるようにする。	B：左右の「はらい」の方向に気をつけて、正しく書こうとしている。 「はらい」を含む漢字や語句を書いている。 A：左右の「はらい」の方向や、さまざまな長さの「はらい」に気をつけて、字形を整えて書こうとしている。 「はらい」を含むさまざまな漢字や語句を書いている。 支援：毛筆で学習した、左右の「はらい」の方向の違いについて再確認する。 学習した以外の文字でも、「はらい」の方向の違いに気をつけて書くよう呼びかける。
	1	21	【レッツ・トライ】はがき—暑中みまい	○はがきの形式を理解し、文字の大きさや行の中心に気をつけて書くことができる。	○教科書のはがきの文面を試書する。 ○試書と教科書の書き方を比較して、基準を理解する。 ○宛名の書き方を知る。 ○自分の課題を見つけ、めあてをもつ。 ○はがきの書き方を知り、練習をする。 ○教科書のはがきの文面をまとめ書きする。	アイ	B：文字の大きさや行の中心の揃え方について理解している。 はがきの形式に従って、文字の大きさに気をつけて書いている。 A：文字の大きさや行の中心の揃え方について、よく理解している。 はがきの形式に従って、文字の大きさや行の中心に気をつけて書いている。	B：はがきの形式に従って丁寧に書く方法について考えている。 A：はがきの形式に従って、文字の大きさや行の中心を整えて書く方法について考えている。	B：はがきの形式を理解し、丁寧に書こうとしている。 A：はがきの形式を理解し、相手意識をもって丁寧に書こうとしている。

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習活動	学習指導要領の内容	評価規準		
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
							支援 ：教科書の紙面を参照しながら、はがきの形式について確かめている。それぞれの行に中心線を入れるなど、行が曲がらずに書くことができるようにする。	支援 ：はがきの表書きについて、相手の名前を大きく書くのは、相手を敬う気持ち が表れていることを説明する。	支援 ：実際のはがきの例を提示することで関心を高めるようにする。
9・10月	1	22・23	【レッツ・トライ】 ①原こう用紙 ーセーフティ教室の作文 ②カード ーてんらん会作品のカード	○原稿用紙の書き方（行頭のとり方や、まず目の中の書く位置）を理解することができる。 ○文字の大きさや配列に気をつけて書くことができる。 ○他教科の学習の中で、文字の大きさや配列に気をつけて書こうとする意欲をもつことができる。	○教科書を参照して、原稿用紙の書き方を確かめる。 ○書き出しや句読点の位置に気をつけて練習する。 ○基準をもとに評価する。（原こう用紙） ○教科書を参照して、展覧会作品のカードを書くときに気をつけることを知る。 ○横書きの書き方について理解する。 ○気づいたことを発表し合う。（てんらん会作品のカード）	アイ	B ：原稿用紙の書き方と、展覧会作品のカードの書き方について理解している。 文字の大きさと、まず目の中の書く位置に気をつけて書いている。 A ：原稿用紙の書き方と、展覧会作品のカードの書き方について、よく理解している。 文字の大きさと、まず目の中の書く位置に気をつけて、字形を整えて書いている。 支援 ：教科書紙面で確認し、原稿用紙の書き方と展覧会作品のカードの書き方が理解できるようにする。 文字の外形を囲み、平仮名や片仮名が漢字より小さく書かれているか確かめられるようにする。	B ：原稿用紙の書き方と、展覧会作品のカードの書き方について考えている。 A ：原稿用紙の書き方と、展覧会作品のカードの書き方について、よく考えている。 支援 ：一ますを四つにくぎり、句読点や拗音・濁音の書く位置について確かめられるようにする。 読みやすい学習成果物の例はどのような点が工夫されているか、具体的なポイントを指摘する。	B ：原稿用紙の書き方に気をつけて書こうとしている。 展覧会作品のカードの書き方に関心をもっている。 他教科の学習においても、原稿用紙の書き方や文字の大きさに気をつけて書こうとする意識をもっている。 A ：原稿用紙の書き方に気をつけて、積極的に書こうとしている。 展覧会作品のカードの書き方に関心もち、積極的に取り組んでいる。 支援 ：国語の学習などで原稿用紙に書いた文字を、教科書の書き方と比べてみるようにする。 読みやすい学習成果物の例を提示することで関心を高めるようにする。
		24～26	5 「おれ」と「はね」の筆使い 『力』	○「おれ」と「はね」の筆使いについて理解することができる。 ○「おれ」と「はね」の筆使いに気をつけて、字形を整えて書くことができる。 ○「おれ」と「はね」の書き方を確かめて、硬筆で字形を整えて書くことができる。	○『力』を硬筆や毛筆で試書する。 ○試書と教科書の文字を比べて、気をつけることを見つける。 ○教科書の「たしかめよう」の例示から、「おれ」と「はね」の筆使いを理解する。 ○「おれ」の方向と穂先の向きに気をつけて、『力』を書く。 ○『力』を硬筆や毛筆でまとめ書きする。 ○教科書の『日』『月』の書き方を見て、『力』の書き方と比べる。 ○目標に沿って、自己評価をする。 ○漢字表などから「おれ」と「はね」のある漢字を探して書く。	アウ	B ：「おれ」と「はね」の筆使いを理解している。 「おれ」と「はね」の筆使いに気をつけて書いている。 A ：「おれ」と「はね」の筆使いについてよく理解し、筆圧について把握している。 「おれ」と「はね」の筆使いに気をつけて、字形を整えて書いている。 支援 ：拡大文字などを使って、始筆・送筆・終筆の筆使いが視覚的に理解できるようにする。 穂先の通り道を確認するとともに、姿勢、執筆などの基礎・基本を確かめられるようにする。	B ：「おれ」と「はね」の筆使いについて考えている。 A ：「おれ」と「はね」の筆使いの良さしを考えている。 支援 ：朱墨や薄墨を使って、穂先の向きや通り道を確認められるようにする。	B ：「おれ」と「はね」の筆使いに気をつけて書こうとしている。 ほかの文字や硬筆でも、「おれ」と「はね」の筆使いに気をつけて書こうとする意識をもっている。 A ：「おれ」と「はね」の筆使いに気をつけて、字形を整えて書こうとしている。 常に「おれ」と「はね」に気をつけて書こうとする意識をもっている。 支援 ：拡大文字などを使って、「おれ」と「はね」の始筆・送筆・終筆に気をつけるよう呼びかける。 学習した以外の文字でも、「おれ」と「はね」の筆使いに気をつけて書くよう呼びかける。

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習活動	学習指導要領の内容	評価規準		
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	3～4	27	くこう筆の学習> 「おれ」と「はね」	○「おれ」と「はね」の方向を理解することができる。 ○「おれ」と「はね」の方向に気を付けて、硬筆で字形を整えて書くことができる。	○『母』『間』『山』『光』『守』を硬筆で書く。 ○毛筆で学習した「おれ」と「はね」の方向について確かめる。 ○「おれ」と「はね」の方向に気を付けて、教科書の教材文字を書く。 ○目標に沿って、自己評価をする。 ○漢字表などから「おれ」と「はね」のある漢字を探して書く。	ア	B ：「おれ」と「はね」の筆使いについて理解している。 「おれ」と「はね」の方向に気を付けて書いている。 A ：「おれ」と「はね」の筆使いについてよく理解し、筆圧について把握している。 「おれ」の方向の違いに気を付けて、字形を整えて書いている。 「はね」の方向の違いに気を付けて、字形を整えて書いている。 支援 ：拡大文字などを使って、始筆・送筆・終筆の筆使いが視覚的に理解できるようにする。 「おれ」「はね」の方向を中心とした書写カードを添削する。	B ：「おれ」と「はね」の方向について考えている。 A ：「おれ」の方向の違いについて考えている。 「はね」の方向の違いについて考えている。 支援 ：「おれ」の方向がどのように違うのか、具体的な言葉で説明できるようにする。 「はね」の方向がどのように違うのか、具体的な言葉で説明できるようにする。	B ：「おれ」と「はね」の方向に気を付けて書こうとしている。 ほかの文字でも「おれ」と「はね」の方向に気を付けて書こうとする意識をもっている。 A ：「おれ」の方向の違いに気を付けて、字形を整えて書こうとしている。 「はね」の方向の違いに気を付けて、字形を整えて書こうとしている。 常に「おれ」と「はね」の方向に気を付けて書こうとする意識をもっている。 支援 ：毛筆で学習した、「おれ」と「はね」の方向について再確認する。 学習した以外の文字でも、「おれ」と「はね」の方向に気を付けて書くよう呼びかける。
10月		28・29	6 ひらがなの筆使い 『つり』	○平仮名の筆使いを理解することができる。 ○平仮名の筆使いに気を付けて書くことができる。 ○平仮名の書き方を確かめて、硬筆で字形を整えて書くことができる。	○平仮名の筆使いに注意して『つり』を硬筆や毛筆で試書する。 ○試書と教科書の文字を比べて、気をつけることを見つける。 ○平仮名は丸みをもって書くことを理解する。 ○基準に合わせて『つり』を書く。 ○『つり』を硬筆や毛筆でまとめ書きする。 ○目標に沿って、自己評価をする。 ○巻末の「ひらがな表」などから、字形に気をつける文字を探して書く。	アウ	B ：平仮名の筆使いについて理解している。 平仮名の筆使いに気を付けて書いている。 A ：平仮名の筆使いについてよく理解し、筆使いについて把握している。 丸みのある柔らかい筆使いで書いている。 支援 ：漢字の筆使いと比較することによって、平仮名の筆使いを理解できるようにする。 ゆっくりと書くことで、丸みができることを確かめられるようにする。	B ：平仮名の筆使いについて考えている。 A ：平仮名の筆使いの良しあしを考えている。 支援 ：朱墨や薄墨を使って、穂先の向きや通り道を確認められるようにする。	B ：平仮名の筆使いに関心をもっている。 ほかの文字や硬筆でも、平仮名の書き方に気を付けて正しく書こうとする意識をもっている。 A ：平仮名の筆使いに関心をもち、積極的に書こうとしている。 常に平仮名の書き方に気を付けて書こうとする意識をもっている。 支援 ：拡大文字などを使って、平仮名の始筆・送筆・終筆に気をつけるよう呼びかける。 学習した以外の文字でも、平仮名の書き方に気を付けて書くよう呼びかける。
	3～4	30・31	くこう筆の学習> 筆順と字形	○筆順のきまりを理解し、字形を整えて書くことができる。 ○筆順のきまりを、他の文字でもあてはめて書くことができる。	○『二』『川』『十』を硬筆で書く。 ○『州』『仕』の筆順をもとに、筆順のきまりについて友達どうして話し合う。 ○筆順のきまりを確認する。 ○『小』『内』『申』を硬筆で書き、漢字表などから同じきまりの文字を探す。 ○目標に沿って、自己評価をする。	ア	B ：筆順の原則を理解している。 筆順の原則に従って、正しく書いている。 A ：文字の筆順の原則について、よく理解している。 筆順の原則に従って、字形を整えて書いている。	B ：筆順の原則について、ほかの文字にもあてはめて考えている。 A ：筆順の原則や字形について、ほかの文字にもあてはめて、よく考えている。	B ：筆順の原則に気を付けて書こうとしている。 ほかの文字でも、筆順の原則に気を付けて書こうとする意識をもっている。 A ：筆順の原則に気を付けて、積極的に書こうとしている。 常に筆順の原則に気を付けて、字形を整えて書こうとする意識をもっている。

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習活動	学習指導要領の内容	評価規準		
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
							支援 ：教科書の脚注や巻末漢字表などを使って、正しい筆順について理解を促す。 今まで学習した筆順の原則を確かめられるようにする。	支援 ：教材文字のどの部分が筆順の原則にあたるのか説明することで、ほかの文字でも確かめられるようにする。	支援 ：筆順を色分けした図版などを使って、筆順に原則があることに気づくようにはたらきかける。 学習した以外の文字でも、筆順に従って書くように意識づける。
11月	1	32	【レッツ・トライ】 ①文化 ―俳句	○漢字と仮名の大きさや、行の中心のそろえ方について理解することができる。 ○漢字と仮名の大きさや行の中心に気をつけて、配列を整えて書くことができる。	○教科書に書かれた俳句を視写する。 ○文字の大きさと中心のそろえ方を確認する。 ○基準に合わせて練習する。 ○試書と比べて自己評価する。	アイ	B ：漢字と仮名の大きさや行の中心のそろえ方について理解している。 漢字と仮名の大きさや行の中心に気をつけて書いている。 A ：漢字と仮名の大きさや行の中心のそろえ方について、よく理解している。 漢字と仮名の大きさや行の中心に気をつけて、配列を整えて書いている。 支援 ：文字の外形を囲むことで、文字の大きさが視覚的に確かめられるようにする。 支援：中心線などの補助線を引いて、配列を確かめられるようにする。	B ：漢字と仮名の大きさや行の中心のそろえ方について考えている。 A ：漢字と仮名の大きさや行の中心のそろえ方について、よく考えている。 支援 ：試書と教材文字とを比較して、自分の課題がわかるようにする。	B ：漢字と仮名の大きさや行の中心のそろえ方に気をつけて書こうとしている。 書写の授業以外でも、漢字と仮名の大きさや行の中心に気をつけて書こうとする意識をもっている。 A ：漢字と仮名の大きさに気をつけて、配列を整えて書こうとしている。 常に漢字と仮名の大きさや行の中心に気をつけて書こうとする意識をもっている。 支援 ：漢字と仮名の大きさや行の中心に着目するよう呼びかける。 書写の授業以外でも、漢字や仮名の大きさや行の中心に気をつけて書くよう呼びかける。
	1	33～35	【レッツ・トライ】 ②手紙 ―お店見学のお礼 じょう	○手紙の形式を理解し、文字の大きさや行の中心に気をつけて書くことができる。	○手紙を書く時の手順を教科書で確認する。 ○手紙の形式を理解する。 ○教科書を見て文字の大きさや行の中心はどうなっているか話し合う。 ○封筒の書き方を知る。 ○メモをもとに手紙を書いてみる。 ○学習したことができていか自己評価する。	アイ	B ：文字の大きさや行の中心の揃え方について理解している。 手紙の形式に従って、文字の大きさに気をつけて書いている。 A ：文字の大きさや行の中心の揃え方について、よく理解している。 手紙の形式に従って、文字の大きさと行の中心に気をつけて書いている。 支援 ：教科書の紙面を参照しながら、手紙の書式について確かめている。 便箋の罫線に対して文字が大きすぎたり小さすぎたりしのように、教科書を見ながら確かめられるようにする。	B ：手紙の形式に従って丁寧に書く方法について考えている。 A ：手紙の書式に従って、文字の大きさや行の中心を整えて書く方法について考えている。 支援 ：相手の名前を上の方に書くことや、封筒の中央に大きく書くのは、相手を敬う気持ちが表れていることを説明する。	B ：手紙の形式を理解し、丁寧に書こうとしている。 A ：手紙の形式を理解し、相手意識をもって丁寧に書こうとしている。 支援 ：実際の手紙の例を提示することで関心を高めるようにする。
11・12月			7 「曲がり」と「おれ」の筆使い 『ビル』	○「曲がり」と「おれ」の筆使いの違いを理解することができる。 ○「曲がり」と「おれ」の筆使いに気をつけて、字形を整えて書くことができる。	○『ビル』を硬筆や毛筆で試書する。 ○試書と教科書の文字を比べて、気をつけることを見つける。 ○「曲がり」と「おれ」の筆使いを理解する。 ○穂先の通る位置や筆圧に気	アウ	B ：「曲がり」と「おれ」の筆使いについて理解している。 「曲がり」と「おれ」の筆使いに気をつけて書いている。	B ：「曲がり」と「おれ」の筆使いについて考えている。	B ：「曲がり」と「おれ」の筆使いに気をつけて書こうとしている。 ほかの文字や硬筆でも、「曲がり」と「おれ」の書き方に気をつけて正しく書こうとする意識をもっている。

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習活動	学習指導要領の内容	評価規準		
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
		36・37		○「曲がり」と「おれ」の違いに気をつけて、硬筆で字形を整えて書くことができる。	をつけて、『ビル』を書く。 ○『ビル』を硬筆や毛筆でまとめ書きする。 ○目標に沿って、自己評価をする。 ○巻末漢字表などから「曲がり」と「おれ」のある漢字を探して書く。		A ：「曲がり」と「おれ」の筆使いについてよく理解し、字形を把握している。 A ：「曲がり」と「おれ」の筆使いに気をつけて、字形を整えて書いている。 支援 ：分解文字などを使って、「曲がり」と「おれ」の字形の違いが視覚的に理解できるようにする。「曲がり」では筆の軸を回さないように、「おれ」では一度筆を止めるように呼びかける。	A ：「曲がり」と「おれ」の筆使いの違いについて、よく考えている。 支援 ：朱墨や薄墨を使って、穂先の向きや通り道を確認められるようにする。	A ：「曲がり」と「おれ」の筆使いに気をつけて、字形を整えて書こうとしている。 常に「曲がり」と「おれ」に気をつけて書こうとする意識をもっている。 支援 ：拡大文字などを使って、「曲がり」と「おれ」の始筆・送筆・終筆に気をつけるよう呼びかける。学習した以外の文字でも、「曲がり」と「おれ」の書き方に気をつけて書くよう呼びかける。
	3～4	38	＜こう筆の学習＞ 「曲がり」と「おれ」	○「曲がり」と「おれ」の違いを理解することができる。 ○「曲がり」と「おれ」の違いに気をつけて、硬筆で字形を整えて書くことができる。	○『モ』『ム』を硬筆で書く。 ○毛筆で学習した「曲がり」と「おれ」の書き方を確かめる。 ○「曲がり」と「おれ」の書き方に気をつけて、教科書の教材文字を書く。 ○目標に沿って、自己評価をする。 ○巻末漢字表などから「曲がり」と「おれ」のある漢字を探して書く。	ア	B ：「曲がり」と「おれ」の違いについて理解している。 「曲がり」と「おれ」の違いに気をつけて書いている。 A ：「曲がり」と「おれ」の筆使いについてよく理解し、字形を把握している。 「曲がり」と「おれ」の違いに気をつけて、字形を整えて書いている。 支援 ：「曲がり」や「おれ」がある文字をいくつか提示することによって、理解できるようにする。	B ：「曲がり」と「おれ」の違いについて考えている。 A ：「曲がり」と「おれ」の違いについて、よく考えている。 支援 ：「曲がり」と「おれ」を書く際の留意点について、具体的な言葉で説明できるようにする。	B ：「曲がり」と「おれ」の違いに気をつけて書こうとしている。 ほかの文字でも「曲がり」と「おれ」に気をつけて正しく書こうとする意識をもっている。 A ：「曲がり」と「おれ」の違いに気をつけて、字形を整えて書こうとしている。 常に「曲がり」と「おれ」に気をつけて書こうとする意識をもっている。 支援 ：毛筆で学習した、「曲がり」と「おれ」の違いについて再確認する。学習した以外の文字でも、「曲がり」と「おれ」に気をつけて書くよう呼びかける。
		39	＜こう筆の学習＞ 文字の組み立て方	○いろいろな文字の組み立て方について理解することができる。 ○文字の組み立て方に気をつけて、硬筆で字形を整えて書くことができる。	○『坂』『音』を硬筆で書く。 ○左右、上下、中と外の組み立て方の基準を確かめる。 ○基準に合わせて教科書の教材文字を書く。 ○試書と比べて自己評価する。	ア	B ：左右の幅の違い、上下の高さの違い、中と外の組み立て方について理解している。 左右・上下・中と外の組み立て方に気をつけて書いている。 A ：左右の幅の違い、上下の高さの違い、中と外の組み立て方についてよく理解し、字形を把握している。 左右・上下・中と外の組み立て方に気をつけて、字形を整えて書いている。	B ：左右の幅、上下の高さ、中と外の組み立て方について考えている。 A ：左右・上下・中と外の組み立て方の良しあしを考えている。	B ：いろいろな文字の組み立て方に気をつけて書こうとしている。 ほかの文字でも左右・上下・中と外の組み立て方に気をつけて正しく書こうとする意識をもっている。 A ：いろいろな文字の組み立て方に気をつけて、字形を整えて書こうとしている。 常に左右・上下・中と外の組み立て方に気をつけて書こうとする意欲をもっている。

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習活動	学習指導要領の内容	評価規準		
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
							支援 ：拡大文字や分解文字などを使って、組み立て方が視覚的に理解できるようにする。 左右の幅や上下の高さ，中と外の部分について意識できるようにする。	支援 ：毛筆文字などを使って，組み立て方や幅が確かめられるようにする。	支援 ：幅や高さの違いに気をつけるよう呼びかける。 学習した以外の文字でも，組み立て方に気をつけて書くよう呼びかける。
12・1月	4～5	50～56	書きぞめ『正月』 小筆で書こう 書ぞめ『友だち』	○床の上や立って書くときの姿勢，筆の持ち方に気をつけて，これまでの学習を生かして書くことを理解することができる。 ○筆使いや文字の中心に気をつけて，字形を整えて書くことができる。	○『正月』（または『友だち』）を試書する。 ○書きぞめの姿勢を知る。 ○試書と教材文字を比べ，基準を理解する。 ○基本点画に気をつけて練習する。 ○試書とまとめ書きを比べ，自己評価する。	アウ	B ：書きぞめの姿勢や筆の持ち方，筆使いについて理解している。 これまで学習した筆使いや文字の中心に気をつけて書いている。 A ：書きぞめの姿勢や筆の持ち方，筆使いについて，よく理解している。 これまで学習した筆使いや文字の中心に気をつけて，字形を整えて書いている。 支援 ：今まで学習した筆使いについて，点画の名称を確認しながら理解できるようにする。 書きぞめ用紙を縦半分に折り，中心を意識できるようにする。 外形を考えることで，文字の大きさについて確かめられるようにする。	B ：書きぞめの姿勢や筆の持ち方について考えている。 A ：書きぞめの姿勢や筆の持ち方の良しあしを考えている。 支援 ：姿勢図や筆の持ち方の図版などを使って，確かめられるようにする。	B ：書きぞめに関心をもち，書こうとしている。 ほかの学習場面でも，よい姿勢や持ち方で，字形を整えて書こうとする意識をもっている。 A ：書きぞめに関心をもち，積極的に書こうとしている。 支援 ：書きぞめの由来を説明し，書きぞめについて関心が高まるようにする。 ほかの学習場面でも，姿勢や持ち方，字形に気をつけて書くよう呼びかける。
2・3月	4	40・41	点画のしゅるい	○3年生で学習した基本点画について確かめることができる。	○教科書の紙面を参照しながら，これまで学習した「点画の種類」について，穂先の向きや通り道，筆圧のかけ方について確かめる。	アウ	B ：これまでに学習した「点画の種類」について理解している。 A ：これまでに学習した「点画の種類」について，よく理解している。 支援 ：教科書紙面を参照しながら，「点画の種類」と筆圧のかけ方について理解を促す。		B ：3年生で学習した基本点画について確かめている。 ほかの文字でも，基本点画に気をつけて書こうとする意識をもっている。 A ：3年生で学習した基本点画について，積極的に確かめている。 常に基本点画に気をつけて書こうとする意識をもっている。 支援 ：これまで学習したページを振り返るように促す。 学習した以外の文字でも，基本点画に気をつけて書くよう呼びかける。
		42～45	8 学習のまとめ『光』	○これまで学習したことを生かして，自分のめあてを選んで，意欲をもって書くことができる。 ○自分の選んだめあてに気をつけて書くことができる。 ○これまで学習したことを生かして，硬筆で書いて確かめることができる。	○『光』を硬筆や毛筆で試書する。 ○これまで学習したことの中から自分のめあてを選ぶ。 ○基本点画の書き方と穂先の向き，筆圧を理解する。 ○自分のめあてに向かって練習する。 ○『光』を硬筆や毛筆でまとめ書きし，試書と比べて達成度を話し合う。 ○自分のめあてが達成できなかった場合は，既習事項を振り返る。	アイウ	B ：これまで学習した筆使いや字形について理解している。 これまで学習したことを生かして，筆使いや字形に気をつけて書いている。 A ：これまで学習した筆使いや字形について，よく理解している。 これまで学習したことを生かして，筆使いに気をつけて，字形を整えて書いている。	B ：これまで学習したことを生かして，自分のめあてを選んでいる。 A ：これまで学習したことを生かして，自分のめあてを適切に選んでいる。	B ：これまで学習したことを生かして，自分のめあてを選んで書こうとしている。 硬筆の学習でも，字形に気をつけて書こうとする意識をもっている。 A ：これまで学習したことを生かして，自分のめあてを選び，進んで書こうとしている。 常に字形に気をつけて書こうとする意識をもっている。

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習活動	学習指導要領の内容	評価規準		
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
							支援 ：1年間の学習内容や成果が確かめられるようにする。 学習事項の要点や筆使いなどを具体的に示すようにする。	支援 ：『光』を試書することで、自分のめあてが見つけられるように支援する。	支援 ：1年間の学習事項や筆使いなどが確かめられるようにする。 書写の授業以外でも、字形に気をつけて書くよう呼びかける。
		46	【知りたい 文字の世界】 「手書き文字」と「活字」	○手書き文字と活字の違いに気づき、文字に対する興味・関心を高めることができる。 ○日常生活の中で見られる活字と手書き文字について、話し合うことができる。	○教室内の文字を探す。 ○手書き文字と活字を比較し、印象や効果について考える。 ○手書き文字と活字は、それぞれどのような目的や場に適しているのか話し合う。 ○話し合った結果を発表する。	アイ	B ：手書き文字と活字の特徴がわかる。 A ：手書き文字と活字の特徴について、よく理解している。 支援 ：教科書紙面を使いながら説明をすることで理解を促す。	B ：手書き文字と活字の違いについて話し合い、考えている。 A ：手書き文字と活字の違いについて話し合い、よく考えている。 支援 ：教科書の例、または用意しておいた拡大文字例等を使い、手書き文字と活字の違いに気づくようにする。	B ：手書き文字と活字の違いに気づき、文字に関する関心を高めている。 手書き文字と活字の特徴について、意欲的に調べようという意識をもっている。 A ：手書き文字と活字の違いに気づき、積極的に調べようとしている。 手書き文字と活字の特徴について意識し、使い分けようという意識をもっている。 支援 ：文字に関するクイズを作成するなどして、興味・関心を高めるようにする。 身のまわりにある手書き文字と活字の例を提示して、目的に応じた使い方に気づくようはたらきかける。
		47	ローマ字表	○ローマ字の書き方を知ることができる。	○教科書のローマ字表を見て、字形を知る。	アイ	B ：ローマ字の字形について理解している。 A ：ローマ字の字形について、よく理解している。 支援 ：字形がわかりにくい文字について、教科書を見ながら確認できるようにする。		B ：ローマ字の字形を確かめている。 常にローマ字の字形を確かめようとする意識をもっている。 A ：ローマ字の字形を、積極的に確かめている。 常にローマ字の字形を確かめて、丁寧に書こうとする意識をもっている。 支援 ：まちがえやすい字形について、重点的に確かめられるように呼びかける。 普段の学習で、常に気をつけるよう意識づける。
			【書いて つたえ合おう】 メモを取ってまとめよう	○書写で学習した内容を、他教科での学習や日常生活にも生かしていく意欲をもつことができる。	○本時の目標を知る。 ○教師の話聞いてメモを取る。 ○メモの書き方を理解する。 ○自分が取ったメモと、教科書のメモの書き方と比較して課題を見つける。 ○教師の話聞いてメモを取る。 ○模造紙にまとめる方法を理	アイ	B ：メモの書き方を理解している。 大事なことを聞きのがさないようにメモを取っている。 読みやすく書くための方法について理解している。 メモをもとに伝えたいことをまとめている。	B ：大事なことをおさえてメモを取る工夫について考えている。 読みやすく書くための方法を意識して、まとめたものを見直している。	B ：書写で学習した内容を、他教科での学習や日常生活にも生かしていく意欲をもっている。

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習活動	学習指導要領の内容	評価規準		
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	適時	48・49			○模造紙にまとめる方法を理解する。 ○学習したことを活かして、模造紙にまとめる。 ○自己評価する。		A ：メモの書き方を，よく理解している。 大事なことをおさえてメモを取っている。 読みやすく書くための方法について，よく理解している。 支援 ：教科書を見ながら，効率的にメモを取るにはどこを省略できるか確かめる。 配列は整っているか，筆記用具は効果的に使われているかなど，具体的な投げかけをする。	A ：大事なことをおさえてメモを取る工夫について，よく考えている。 読みやすく書くための方法を意識して，まとめたものを見直したり工夫したりしている。 支援 ：自分のメモに書き込みをして，課題を見つけるようにする。 読みやすく書くための基準について確かめられるようにする。	A ：書写で学習した内容を，他教科での学習や日常生活にも積極的に生かしていく意欲をもっている。 支援 ：ふだんの生活のなかでメモを取る場面について問いかける。 読みやすい学習成果物の例などを具体的に例示する。
		57～60	【漢字表】 三年生で学習する漢字 二年生で学習した漢字	○2年生で学習した字形の整え方，筆順などを確かめることができる。 ○3年生で学習した字形の整え方，筆順などを確かめることができる。 ○巻末漢字表を活用した漢字の仲間分けの活動を行ったり，筆順をまちがえやすい漢字について確かめたりすることができる。	○筆順のきまりを確認する。 ○筆順に気をつける漢字を正しい筆順で書く。 ○文字の組み立て方の観点から，巻末漢字表の文字を分類し，印を書き込む。 ○友達と見せ合い，正しく書けたか相互評価する。	アイ	B ：同じ点画をもつ漢字，同じ組み立て方をもつ漢字など，漢字の仲間分けについて理解している。 同じ点画をもつ漢字，同じ組み立て方をもつ漢字など，漢字の仲間分けをしている。 A ：同じ点画をもつ漢字，同じ組み立て方をもつ漢字など，漢字の仲間分けについて，よく理解している。 同じ点画をもつ漢字，同じ組み立て方をもつ漢字など，漢字を正しく仲間分けしている。 支援 ：これまで学習した基本，点画などの内容を振り返り，確かめられるようにする。 どの文字のどの部分に着目して探すか，具体的に説明する。	B ：これまで学習した字形の整え方，筆順について考えている。 同じ点画をもつ漢字，同じ組み立て方をもつ漢字など，漢字の仲間分けについて考えている。 A ：これまで学習した字形の整え方，筆順について，よく考えている。 同じ点画をもつ漢字，同じ組み立て方をもつ漢字など，漢字の仲間分けについて判断している。 支援 ：教科書紙面を使って，正しい筆順や字形の整え方などが確かめられるようにする。 どの文字のどの部分に着目して探すか，具体的に説明する。	B ：巻末漢字表を使った漢字の仲間分けの活動や，漢字の成り立ちについて，関心を高めている。 ほかの学習場面でも，筆順や字形に気をつけて書こうとする意識をもっている。 A ：巻末漢字表を使った漢字の仲間分けの活動や，漢字の成り立ちについて関心を高め，積極的に取り組もうとしている。 常に筆順や字形に気をつけて書こうとする意識をもっている。 支援 ：巻末漢字表の使い方について確かめられるようにする。 書写の授業以外でも，気をつけるよう意識づける。
		61	【ひらがな表】 【かたかな表】 【やってみよう】	○平仮名，片仮名の筆順や字形を確かめることができる。	○「ひらがな表」「かたかな表」を見て，平仮名と片仮名の筆順や字形を確認する。 ○字形がうまくとれない文字について，重点的に練習する。	アイ	B ：平仮名，片仮名の筆順や字形について理解している。 A ：平仮名，片仮名の筆順や字形について，よく理解している。 支援 ：ふだん，字形を整えにくい文字に関して，教科書を見ながら確認できるようにする。		B ：平仮名，片仮名の筆順や字形を確かめている。 常に平仮名，片仮名の筆順や字形を確かめようとする意識をもっている。 A ：平仮名，片仮名の筆順や字形を，積極的に確かめている。 常に平仮名，片仮名の筆順や字形を確かめて，丁寧に書こうとする意識をもっている。 支援 ：まちがえやすい筆順について，重点的に確かめられるように呼びかける。 書写の授業以外でも，常に気をつけるよう意識づける。

令和7年度版「小学 書写 四年」年間指導計画・評価計画（案）

「支援」は、「B」に至らない児童に対する支援・援助の方法例。

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習活動	学習指導要領の内容	評価基準		
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4月	2	表紙裏①・1	世界の「こんにちは」	○世界にはさまざまな文字があることを知り、文字に対する興味・関心を高めることができる。 ○日本の文字の特徴について、興味・関心を高めることができる。	○教科書の「世界の『こんにちは』」を音読する。 ○世界の文字について、その特徴や疑問点を自分が書く場合を想定して考え、グループで話し合う。 ○グループごとに発表する。	アイウ	B ：世界にはさまざまな文字があることについて知っている。 日本の文字の特徴について知っている。 A ：世界にはさまざまな文字があることを理解している。 日本の文字について理解している。 支援 ：教科書紙面を使いながら説明をすることで理解を促す。	B ：日常生活の中で見られる世界や日本の文字の印象について話し合い、考えている。 A ：日常生活の中で見られる世界や日本の文字の印象について進んで話し合い、よく考えている。 支援 ：文字に関する発問を用意しておくなど、話し合いの観点を示すようにする。	B ：世界や日本の文字について、理解していこうとする意識をもっている。 A ：世界や日本の文字について、積極的に調べていこうとしている。 支援 ：教科書の例、または用意しておいた世界の文字や日本の文字などを提示し、関心を高めるようにする。
		2～5	四年生で学習すること 目次 学習の進め方	○1年間の学習内容や学習の進め方について確認し、書写学習に対する意欲をもつことができる。	○教科書を参照して、学習のめあてを知る。 ○1年間の学習内容を知る。	アイウ	B ：1年間のめあてや学習内容について知っている。 A ：1年間のめあてや学習内容について理解している。 支援 ：前学年で学習した内容をふまえながら説明する。		B ：1年間の学習内容を知り、書写学習に対する意欲をもっている。 A ：1年間の学習内容を知り、積極的に書写学習に取り組む意欲をもっている。 支援 ：教科書紙面を参照しながら、1年間の学習内容と、学習したことを書写以外の学習にも生かしていくことについて説明する。
		6～14	1 はじめの学習 1 毛筆用具の名前と置き方やあつかい方 2 よいしせいと筆の持ち方 3 3年生で学習したこと ■点画の種類 4 あとかたづけ	○用具の並べ方や扱い方について確かめることができる。 ○よい姿勢や筆の持ち方について確かめることができる。 ○常により姿勢やよい持ち方を意識して書くことができる。 ○3年生で学習したことを確かめることができる。	○姿勢図を見て、用具の置き方、正しい姿勢、用具の持ち方を確かめる。 ○教科書の紙面を参照しながら、「点画の種類」と筆圧のかけ方について理解する。 ○筆の穂の柔らかさや筆圧を意識して、いろいろな線を書く。 ○ワークシートを活用して、「点画の種類」を書く。 ○自分の課題を見つけて練習する。 ○自分の課題とした「点画の種類」をまとめ書きする。 ○後片づけの仕方を確かめる。	アイウ	B ：用具の扱い方や姿勢、筆の持ち方、筆の扱い方を理解している。 用具の扱い方や姿勢、筆の持ち方が身についている。 3年生で学習した「筆圧」や「点画の種類」について理解している。 A ：用具の扱い方や、よい姿勢、筆の持ち方で書くことを、よく理解している。 用具の扱い方や、姿勢、筆の持ち方が、よく身についている。 3年生で学習した「筆圧」や「点画の種類」について、よく理解している。 支援 ：よい姿勢やよい筆の持ち方で書くことの大切さについて理解を促す。 用具の扱い方やよい姿勢、筆の持ち方のポイントを具体的に説明する。 教科書紙面を参照しながら、「点画の種類」と筆圧のかけ方について理解を促す。	B ：用具の扱い方や姿勢、筆の持ち方、筆の扱い方の良しあしを考えている。 筆の穂の柔らかさや筆圧について考えている。 A ：用具の扱い方や姿勢、筆の持ち方、筆の扱い方の良しあしを判断できる。 筆の穂の柔らかさや筆圧について、よく考えている。 支援 ：どこを正すと姿勢、筆の持ち方がよくなるかを、基準に照らして説明する。 筆の状態を確認し、運筆がしやすい状態に整えるようにする。 教科書紙面を参照しながら、筆圧を三段階でとらえて、力の入れ方と太さを確かめられるようにする。	B ：用具の扱い方やよい姿勢、筆の持ち方、筆の扱い方を確かめようとしている。 ほかの書写場面でも、よい姿勢やよい持ち方で、筆の穂の柔らかさや筆圧、「点画の種類」を意識して書こうとする意識をもっている。 A ：用具の扱い方やよい姿勢、筆の持ち方、筆の扱い方を積極的に確かめようとしている。 常により姿勢やよい持ち方で、筆の穂の柔らかさや筆圧、「点画の種類」を意識して書こうとする意識をもっている。 支援 ：用具の配置図や姿勢図、持ち方の写真と比べて、自分でチェックできるようにする。 書写以外の学習でも気をつけるように呼びかける。

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習活動	学習指導要領の内容	評価規準		
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
5月	2～3	15～17	2 点画の筆使い『花』	○点画の筆使いを確かめることができる。 ○点画の筆使いに気をつけて、字形を整えて書くことができる。 ○点画の書き方を確かめて、硬筆で字形を整えて書くことができる。	○『花』を硬筆や毛筆で試書する。 ○試書と教材文字を比べて、気をつけることを見つける。 ○片仮名の「ヒ」との違いや点画の書き方に気をつけて、『花』を書く。 ○『花』を硬筆や毛筆でまとめ書きする。 ○めあてに気をつけて書けたところを話し合う。 ○目標に沿って、自己評価をする。 ○巻末漢字表などから筆使いと点画の書き方に気をつける漢字を探して書く。	アウ	B ：点画の筆使いについて理解している。 点画の筆使いに気をつけて書いている。 A ：点画の筆使いについてよく理解し、字形を把握している。 点画の筆使いに気をつけて、字形を整えて書いている。 支援 ：ほかの文字の例を見ることによって、点画の筆使いを確かめられるようにする。 それぞれの課題解決ができるような練習用紙を使って、書きにくい部分が解決できるようにはたらきかける。	B ：点画の筆使いについて考えている。 A ：点画の筆使いの良しあしを考えている。 支援 ：穂先の向きと穂先の通り道はどうなっているか説明できるようにする。空書することで、それぞれの筆使いを確かめるようにする。	B ：点画の筆使いに気をつけて書こうとしている。 ほかの文字や硬筆でも、点画の筆使いに気をつけて書こうとする意識をもっている。 A ：点画の筆使いに気をつけて、字形を整えて書こうとしている。 常に点画の筆使いに気をつけて書こうとする意識をもっている。 支援 ：水書板などを使って、「はらい」「曲がり」などの筆使いを確かめられるようにする。
6月	1	18・19	【レッツ・トライ】 発表しりょう —学習内ようをまとめる	○横書きの書き方（行頭のそろえ方，字間，行間）を理解して，配列に気をつけて書くことができる。 ○他教科の学習の中で，配列に気をつけて書こうとする意欲をもつことができる。	○読み手に内容がよく伝わる発表資料にするにはどうしたらよいか話し合う。 ○横書きで読みやすく書くためのポイントを理解する。 ○基準に気をつけて，練習用紙に練習する。 ○まとめ書きをする。	アイ	B ：横書きの書き方と配列について理解している。 横書きの書き方を理解して，配列に気をつけて書いている。 A ：横書きの書き方をよく理解して，配列の整え方について把握している。 横書きの書き方を理解して，配列よく書いている。 支援 ：箇条書きを書く際の行頭のあけ方や字間など，具体的な視点をあげて呼びかける。 補助線を引いて，配列を確かめられるようにする。	B ：読み手に内容がよく伝わる発表資料の作成方法について話し合っている。 A ：読み手に内容がよく伝わる発表資料の作成方法について，積極的に話し合っている。 支援 ：どのように書いたら相手に伝わりやすいか，具体的な場面について投げかけるようにする。	B ：書写以外の学習でも，相手意識をもって配列に気をつけて書こうとしている。 A ：書写以外の学習でも，相手意識をもって配列に気をつけて積極的に書こうとしている。 支援 ：書写で学習した内容を，他教科で生かしていく学習であることを伝える。 書写以外の学習でも，相手意識をもって配列に気をつけて書くよう呼びかける。

指導 月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習活動	学習指導 要領の 内容	評 価 規 準		
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
6・ 7月		20・21	3 筆順と字形 『左右』	○筆順と字形の関係を理解することができる。 ○筆順に気をつけて、字形を整えて書くことができる。 ○筆順と字形を確かめて、硬筆で字形を整えて書くことができる。	○『左右』を硬筆や毛筆で試書する。 ○試書と教材文字を比べて話し合う。 ○正しい筆順と点画の長さの違いを確認し、『左右』を書く。 ○『左右』を硬筆や毛筆でまとめ書きする。 ○めあてに気をつけて書けたところを話し合う。 ○目標に沿って、自己評価をする。 ○巻末漢字表などから筆順と字形に気をつける漢字を探して書く。	アウ	B ：筆順と字形との関係について理解している。 筆順と字形に気をつけて書いている。 A ：筆順と字形との関係についてよく理解し、字形の整え方を把握している。 正しい筆順で、字形を整えて書いている。 支援 ：ほかの文字の例を見ることによって、筆順と字形の関係を確かめられるようにする。 画の長さや外形について、具体的に説明できるようにする。	B ：筆順と字形との関係について考えている。 A ：筆順と字形との関係について、よく考えている。 支援 ：分解文字などを使って、筆順と字形が確かめられるようにする。	B ：筆順と字形に気をつけて書こうとしている。 ほかの文字や硬筆でも、筆順と字形に気をつけて書こうとする意識をもっている。 A ：筆順と字形に気をつけて、字形を整えて書こうとしている。 常に筆順と字形に気をつけて書こうとする意識をもっている。 支援 ：字源を説明することで、筆順と字形に対する関心を高められるようにする。 学習した以外の文字や硬筆でも、筆順と字形に気をつけて書くよう呼びかける。
	3～4	22・23	＜こう筆の学習＞ 筆順と字形	○筆順の原則を理解することができる。 ○筆順に気をつけて、硬筆で字形を整えて書くことができる。	○筆順の大きなきまりと、その他のきまりを確かめて、教科書の教材文字を書く。 ○試書の筆順を話し合う。 ○正しい筆順と筆順の原則を理解する。 ○筆順に気をつけて、教科書にある教材文字を書く。 ○筆順を誤りやすい『兆』『機』『飛』『成』を書く。 ○筆順と字形に気をつけてまとめ書きをする。	ア	B ：筆順の原則について理解している。 筆順と字形に気をつけて書いている。 A ：筆順の原則についてよく理解し、字形の整え方を把握している。 正しい筆順で、字形を整えて書いている。 支援 ：いろいろな文字の例にあてはめて考えることによって、筆順と字形の関係を確かめられるようにする。 字形が整っていない文字について、筆順を確かめられるようにする。	B ：筆順の原則について考えている。 A ：筆順の原則についてよく考えている。 なぜ筆順どおりに書くことが大切なのか、考えている。 支援 ：教科書の図版などを使って、筆順の原則が確かめられるようにする。	B ：筆順と字形に気をつけて、硬筆で書こうとしている。 ほかの書写場面でも、筆順の原則に従って、字形を整えて書こうとする意識をもっている。 A ：筆順と字形に気をつけて、字形を整えて硬筆で書こうとしている。 常に筆順の原則に従って、字形を整えて書こうとする意識をもっている。 支援 ：文字の中のどの部分に筆順の原則が使われているか説明することで、筆順に対する関心を高める。 書写の授業以外でも、筆順と字形に気をつけて書くよう呼びかける。
	2	24・25	4 ひらがなの筆使い 『はす』	○「結び」の筆使いを理解することができる。 ○「結び」の筆使いや形の違いに気をつけて書くことができる。 ○「結び」の形の違いを確かめて、硬筆で字形を整えて書くことができる。	○硬筆と毛筆で『はす』を試書する。 ○試書と教材文字を比べて話し合う。 ○「結び」の筆使いや字形、穂先の動きを確認し、練習する。 ○『はす』をまとめ書きする。 ○めあてに気をつけて書けたところを話し合う。 ○目標に沿って、自己評価をする。 ○巻末の「ひらがな表」などから、字形に気をつける文字を探して書く。	アウ	B ：「結び」の筆使いについて理解している。 「結び」の筆使いに気をつけて書いている。 A ：横の「結び」と縦の「結び」の筆使いの違いや字形について、よく理解している。 「結び」の筆使いに気をつけて、字形を整えて書いている。 支援 ：拡大文字などを使って、筆使いや形が視覚的に確かめられるようにする。 教科書の図版を参照しながら縦の結びと横の結びの違いについて説明し、理解できるようにする。	B ：「結び」の筆使いについて考えている。 A ：「結び」の筆使いの良しあしを考えている。 支援 ：朱墨や薄墨を使って、穂先の向きや通り道が確かめられるようにする。	B ：「結び」の筆使いに気をつけて書こうとしている。 ほかの文字や硬筆でも、「結び」の字形に気をつけて書こうとする意識をもっている。 A ：「結び」の筆使いに気をつけて、字形を整えて書こうとしている。 常に縦・横の「結び」の字形の違いに気をつけて書こうとする意識をもっている。 支援 ：拡大文字などを使って、「結び」の筆使いや形に気をつけるよう呼びかける。 学習した以外の文字でも、「結び」の形の違いに気をつけて書くよう呼びかける。

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習活動	学習指導要領の内容	評価規準		
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	1	26・27	【レッツ・トライ】 ノート ー理科のノート	○学習内容が理解しやすいノートのまとめ方を理解することができる。 ○書写で学習した内容を，他教科での学習に生かしていく意識をもち，工夫して書こうとすることができる。	○学級内でまとめ方がわかりやすいノートの例を数点用意して，工夫されている点を話し合う。 ○話し合った内容を発表し，学級で共有する。 ○学習したことを生かして，次時のノートをとる。	アイ	B ：学習内容が理解しやすいノートのまとめ方についてわかっている。 学習内容が理解しやすいように工夫してノートをまとめている。 A ：学習内容が理解しやすいノートのまとめ方について，よく理解している。 学習内容が理解しやすいように，よく工夫してノートをまとめている。 支援 ：簡条書きで書く際の行頭のあけ方や余白のとり方など，具体的な視点をあげて呼びかける。 自分の普段のノートを見直してみて，わかりにくい点はないか確かめるようにする。	B ：学習内容が理解しやすいノートのまとめ方について考えている。 A ：学習内容が理解しやすいノートのまとめ方について，よく考えている。 支援 ：どのように書いたら内容が理解しやすいか，具体的な書き方について例示するようにする。	B ：書写で学習した内容を，他教科での学習に生かしていく意欲をもっている。 書写以外の学習場面でも，わかりやすい書き表し方を工夫して書こうとしている。 A ：書写で学習した内容を，他教科での学習に生かし，積極的に書こうとする意欲をもっている。 常にわかりやすい書き表し方を工夫して書こうとしている。 支援 ：書写で学習した内容を，他教科で生かしていく学習であることを伝える。 書写以外の学習でも，わかりやすい書き表し方を工夫して書くよう呼びかける。
9月	1	28・29	【レッツ・トライ】 はがき ーけい老の日のはがき	○はがきの形式を理解し，相手意識をもって丁寧に書くことができる。 ○文字の大きさや行の中心に気をつけて書くことができる。	○はがきを書く時の手順を教科書で確認する。 ○はがきの形式を理解する。 ○教科書を見て文字の大きさや行の中心はどうなっているか話し合う。 ○都道府県の書き方を知り，練習する。 ○はがきの裏面の書き方を知る。 ○メモをもとにはがきを書いてみる。 ○学習したことができているか自己評価する。	アイ	B ：文字の大きさや行の中心の揃え方について理解している。 はがきの形式に従って，文字の大きさに気をつけて書いている。 A ：文字の大きさや行の中心の揃え方について，よく理解している。 はがきの形式に従って，文字の大きさと行の中心に気をつけて書いている。 支援 ：教科書の紙面を参照しながら，はがきの書式について確かめられるようにする。 はがきに対して文字が大きすぎたり小さすぎたりしのように，教科書を見ながら確かめられるようにする。	B ：はがきの形式に従って丁寧に書く方法について考えている。 A ：はがきの書式に従って，文字の大きさや行の中心を整えて書く方法について考えている。 支援 ：相手の名前を上の方に書くことや，はがきの中央に大きく書くのは，相手を敬う気持ちが表れていることを説明する。	B ：はがきの形式を理解し，丁寧に書こうとしている。 A ：はがきの形式を理解し，相手意識をもって丁寧に書こうとしている。 支援 ：実際のはがきの例を提示することで関心を高めるようにする。
	2	30・31	5 文字の組み立て方（左右） 『林』	○「へん」と「つくり」の幅の違いと点画の形の変化を理解することができる。 ○「へん」と「つくり」の組み立て方に気をつけて，字形を整えて書くことができる。 ○「へん」の幅と点画の形を確かめて，硬筆で字形を整えて書くことができる。	○『林』を硬筆や毛筆で試書する。 ○試書と教材文字を比べて話し合う。 ○「へん」と「つくり」の組み立て方について確認し，練習する。 ○『林』を硬筆や毛筆でまとめ書きする。 ○めあてに気をつけて書けたところを話し合う。 ○目標に沿って，自己評価をする。 ○巻末漢字表などから左右の組み立て方に気をつける漢字を探して書く。	アウ	B ：「へん」と「つくり」の幅の違いと点画の形の変化について理解している。 「へん」と「つくり」の組み立て方に気をつけて書いている。 A ：「へん」と「つくり」の幅の違いと点画の形の変化についてよく理解し，字形を把握している。 「へん」と「つくり」の組み立て方に気をつけて，字形を整えて書いている。 支援 ：ほかの文字の例を見ることによって，点画のゆずり合いを比べてみることができるようにする。 点画のゆずり合いが確認できるようにする。	B ：「へん」と「つくり」の組み立て方について考えている。 A ：「へん」と「つくり」の組み立て方の良しあしを考えている。 支援 ：拡大文字などを使って，文字の組み立て方が確かめられるようにする。	B ：「へん」と「つくり」の組み立て方に気をつけて書こうとしている。 ほかの文字や硬筆でも，文字の組み立て方に気をつけて書こうとする意識をもっている。 A ：「へん」と「つくり」の組み立て方に気をつけて，字形を整えて書こうとしている。 常に文字の組み立て方に気をつけて書こうとする意識をもっている。 支援 ：「へん」と「つくり」の組み立て方に気をつけるよう呼びかける。 学習した以外の文字でも，文字の組み立て方に気をつけて書くよう呼びかける。

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習活動	学習指導要領の内容	評価規準		
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
10月	2	32・33	6 文字の組み立て方（上下） 『笛』	○上の部分の形の変化を理解することができる。 ○上下の組み立て方に気をつけて、字形を整えて書くことができる。 ○上下の組み立て方を確かめて、硬筆で字形を整えて書くことができる。	○『笛』を硬筆や毛筆で試書する。 ○試書と教材文字を比べて話し合う。 ○「へん」と「つくり」の組み立て方について確認し、練習する。 ○『笛』を硬筆や毛筆でまとめ書きする。 ○めあてに気をつけて書けたところを話し合う。 ○目標に沿って、自己評価をする。 ○巻末漢字表などから左右の組み立て方に気をつける漢字を探して書く。	アウ	B ：上の部分と下の部分の高さの違いと点画の形の変化について理解している。 上下の組み立て方に気をつけて書いている。 A ：上の部分と下の部分の高さの違いと点画の形の変化についてよく理解し、字形を把握している。 上下の組み立て方に気をつけて、字形を整えて書いている。 支援 ：ほかの文字の例を見ることによって、点画のゆずり合いを比べてみることができるようにする。	B ：上下の組み立て方について考えている。 A ：上下の組み立て方の良しあしを考えている。 支援 ：拡大文字などを使って、文字の組み立て方が確かめられるようにする。	B ：「へん」と「つくり」の組み立て方に気をつけて書こうとしている。 ほかの文字や硬筆でも、文字の組み立て方に気をつけて書こうとする意識をもっている。 A ：「へん」と「つくり」の組み立て方に気をつけて、字形を整えて書こうとしている。 常に文字の組み立て方に気をつけて書こうとする意識をもっている。 支援 ：学習した以外の文字でも、文字の組み立て方に気をつけて書くよう呼びかける。
10・11月	5～6	34～37	7 文字の組み立て方（選たく） ①左右の組み立て方 『土地』 ②上下の組み立て方 『岩山』	○自分のめあてを設定し、めあてに合わせた教材を選択し、意欲をもって書くことができる。 ○左右・上下の組み立て方（幅や高さのとり方）を理解して、字形を整えて書くことができる。 ○左右・上下の組み立て方を確かめて、硬筆で字形を整えて書くことができる。	○『土地』か『岩山』を硬筆や毛筆で試書する。 ○試書と教材文字を比べて話し合う。 ○幅や高さ、形の変化について確認し、課題別に練習する。 ○自分の選んだ教材文字をまとめ書きする。 ○目標に沿って、自己評価をする。	アウ	B ：左右・上下の組み立て方（幅や高さのとり方）を理解している。 左右・上下の組み立て方に気をつけて書いている。 A ：左右・上下の組み立て方（幅や高さのとり方）を理解し、字形を把握している。 左右・上下の組み立て方に気をつけて、字形を整えて書いている。 支援 ：点画のゆずり合いや、自分の課題が視覚的に確かめられるようにする。 点画のゆずり合いが確認できるようにする。	B ：自分のめあてに適した教材を選択している。 幅や高さ、形がどう変わっているか、考えている。 A ：自分のめあてに適した教材を、適切に選択している。 幅や高さ、形がどう変わっているか、よく考えている。 支援 ：それぞれの教材文字は、幅や高さ、形がどう変わるのか、同じ課題の友達と考えることができるようにする。	B ：自分のめあてを設定し、めあてに合わせた教材を選択しようとしている。 ほかの文字や硬筆でも、自分の課題をもち、組み立て方に気をつけて書こうとしている。 A ：自分のめあてを設定し、めあてに合わせた教材を選択し、意欲をもって書こうとしている。 常に自分の課題をもち、組み立て方に気をつけて書こうとしている。 支援 ：自分の課題はどのようなところにあるか、前時を振り返り確かめられるようにする。 学習した以外の文字でも、組み立て方に気をつけて、主体的に書くよう呼びかける。
		38	＜こう筆の学習＞ 文字の組み立て方	○左右・上下の組み立て方と点画の変化について理解することができる。 ○左右・上下の組み立て方と点画の変化に気をつけて、硬筆で字形を整えて書くことができる。 ○左右・上下の組み立て方で構成される漢字の、点画の変化を見つける活動について、意欲的に取り組むことができる。	○『説』『湖』『電』を、組み立て方に気をつけながら試書する。 ○それぞれの組み立て方がどのようなになっているか考え、教科書を見て基準を確認する。 ○基準に気をつけて練習する。 ○文字の組み立て方に気をつけて、まとめ書きをする。 ○巻末漢字表から、左右・上下の組み立て方で構成されている漢字を探す。	ア	B ：左右の幅の違い、上下の高さの違いと点画の変化について理解している。 左右・上下の組み立て方と点画の変化に気をつけて書いている。 A ：左右・上下の組み立て方と点画の変化についてよく理解し、字形を把握している。 左右・上下の組み立て方と点画の変化に気をつけて、字形を整えて書いている。	B ：左右の幅、上下の高さ、点画の変化について考えている。 A ：左右・上下の組み立て方、点画の変化の良しあしを考えている。	B ：左右・上下の組み立て方のある漢字を書く活動に取り組もうとしてる。 ほかの文字でも左右・上下の組み立て方と点画の変化に気をつけて書こうとする意識をもっている。 A ：左右・上下の組み立て方のある漢字を書く活動に、意欲をもって取り組もうとしてる。 常に左右・上下の組み立て方と点画の変化に気をつけて書こうとする意欲をもっている。

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習活動	学習指導要領の内容	評価規準		
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
							支援 ：拡大文字や分解文字などを使って、組み立て方と点画の変化が視覚的に理解できるようにする。 左右の幅や上下の高さと点画の変化について意識できるようにする。	支援 ：毛筆文字などを使って、組み立て方や幅、点画の変化が確かめられるようにする。	支援 ：漢字合わせクイズを行ったり、部首のものと字について調べたりすることで、関心を高めるようにする。 学習した以外の文字でも、組み立て方と点画の変化に気をつけて書くよう呼びかける。
12月	1	39	【レッツ・トライ】 文化 —短歌	○文字の大きさと配列について理解することができる。 ○文字の大きさや行の中心に気をつけて、配列を整えて書くことができる。	○教科書の短歌・俳句を鉛筆で書く。 ○縦書きで配列を整えて書くための基準を理解する。 ○練習用紙を選択し、文字の大きさと行の中心に気をつけて練習する。 ○試書と比べて評価する。 ○ほかの俳句や短歌でも、配列を整えて書く読みやすいことを知る。	アイ	B ：文字の大きさと配列について理解している。文字の大きさと配列に気をつけて書いている。 A ：文字の大きさと配列についてよく理解し、字形を把握している。文字の大きさと配列に気をつけて、字形を整えて書いている。 支援 ：文字の外形を囲むことで、文字の大きさが視覚的に確かめられるようにする。 中心線などの補助線を引いて、配列を確かめられるようにする。	B ：文字の大きさと配列について考えている。 A ：文字の大きさと配列について、よく考えている。 支援 ：試書と教材文字とを比較して、自分の課題がわかるようにする。	B ：文字の大きさと配列に気をつけて書こうとしている。 書写以外の学習場面でも、文字の大きさや配列に気をつけて書こうとする意識をもっている。 A ：文字の大きさと配列に気をつけて、字形を整えて書こうとしている。 常に文字の大きさや配列に気をつけて書こうとする意識をもっている。 支援 ：文字の大きさと配列に着目するよう呼びかける。 書写以外の学習でも、文字の大きさや配列に気をつけて書くよう呼びかける。
12・ 1月	3～4	50・ 51, 53 ～56	書きぞめ 『元気』 『美しい空』	○床の上や立って書くときの姿勢、筆の持ち方に気をつけて、これまでの学習を生かして書くことを理解することができる。 ○文字の大きさや中心に気をつけて、字形を整えて書くことができる。	○『元気』（または『美しい空』）を試書する。 ○書きぞめの姿勢を知る。 ○試書と教材文字を比べ、基準を理解する。 ○基本点画に気をつけて練習する。 ○試書とまとめ書きを比べ、自己評価する。	アイウ	B ：書きぞめの姿勢や持ち方、筆使いについて理解している。 これまで学習した筆使いや文字の大きさに気をつけて書いている。 A ：書きぞめの姿勢や持ち方、筆使いについて、よく理解している。 これまで学習した筆使いや文字の大きさに気をつけて、字形を整えて書いている。 支援 ：今まで学習した筆使いについて、点画の名称を確認しながら理解できるようにする。 書きぞめ用紙を縦半分に折り、中心を意識できるようにする。 外形を考えることで、文字の大きさについて確かめられるようにする。	B ：書きぞめの姿勢や筆の持ち方について考えている。 A ：書きぞめの姿勢や筆の持ち方の良さあしを考えている。 支援 ：姿勢図や筆の持ち方の図版などを使って、確かめられるようにする。	B ：書きぞめに関心をもち、書こうとしている。 ほかの学習の書写場面でも、よい姿勢や持ち方で、字形を整えて書こうとする意識をもっている。 A ：書きぞめに関心をもち、積極的に書こうとしている。 常によい姿勢や持ち方で、字形を整えて書こうとする意識をもっている。 支援 ：書きぞめの由来を説明し、書きぞめについて関心が高まるようにする。 書写以外の学習でも、姿勢や持ち方、筆使いに気をつけて書くよう呼びかける。

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習活動	学習指導要領の内容	評価規準		
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1月	適時	40	【知りたい 文字の世界】 さまざまなかるた	○さまざまなかるたについて知り、文字に対する興味・関心を高めることができる。	○自分が住む地域のかるたや、さまざまなかるたについて調べる。 ○かるたの特徴など、気がついたことを話し合う。 ○話し合ったことを発表する。	アイ			B ：さまざまなかるたについて調べようとしている。 A ：さまざまなかるたについて、積極的に調べようとしている。 支援 ：学校にあるさまざまなかるたを例示することで、関心を高めるようにする。
	1	41	【レッツ・トライ】 かるた —ぼうさいかるたを作る	○これまで学習した内容を生かして、ぼうさいかるたの文字を書くことができる。 ○用紙全体に対する文字の大きさや配列を考えて書くことができる。	○本時の目標を知る。 ○ワークシートに防災かるたの文章を考えて記入する。 ○教科書を見ながら、読みやすい文字の大きさや配列を考えて下書きをする。 ○自分のめあてを把握し、課題解決に向けて練習する。 ○かるたの用紙に書き、防災かるたを完成させる。 ○自己評価シートを記入し、自己評価する。	アイ	B ：読みやすい文字の大きさや配列を理解している。 文字の大きさや配列に気をつけて防災かるたを書いている。 A ：読みやすい文字の大きさや配列について、よく理解している。 文字の大きさや配列を整えて、防災かるたを書いている。 支援 ：行が曲がってしまう場合は鉛筆で薄く中心線を書いたり、文字を書く位置に丸で印をつけたりするよう呼びかける。	B ：読みやすい文字の大きさや配列について考えている。 A ：読みやすい文字の大きさや配列について、よく考えている。 支援 ：平仮名は漢字よりやや小さく書くこと、頭文字は大きく書くことなどを、具体的に説明する。	B ：文字の大きさと配列に気をつけて書こうとしている。 書写以外の学習場面でも、文字の大きさや配列に気をつけて書こうとする意識をもっている。 A ：文字の大きさと配列に気をつけて、字形を整えて書こうとしている。 常に文字の大きさや配列に気をつけて書こうとする意識をもっている。 支援 ：文字の大きさと配列に着目するよう呼びかける。 書写以外の学習でも、文字の大きさや配列に気をつけて書くよう呼びかける。
2・3月	4～5	42～45	8 学習のまとめ 『平和』	○これまで学習したことを生かして、自分のめあてを選んで、意欲をもって書くことができる。 ○自分の選んだめあてに気をつけて書くことができる。 ○学習したことを生かして、硬筆で書いて確かめることができる。	○『平和』を硬筆や毛筆で試書する。 ○これまで学習したことの中から自分のめあてを選ぶ。 ○左右の組み立て方や、「左はらい」の方向の違いを理解する。 ○自分のめあてに向かって練習する。 ○『平和』を硬筆や毛筆でまとめ書きし、試書と比べて達成度を話し合う。 ○自分のめあてが達成できなかった場合は、既習事項を振り返る。（毛筆） ○縦罫線の用紙に『ごんぎつね』の一部を試書する。 ○中心に線を引いて自己批評する。 ○文字の大きさや配列に気をつけて、まとめ書きをする。（硬筆）	アイウ	B ：これまで学習した字形の整え方について理解している。 これまで学習したことを生かして、字形の整え方に気をつけて書いている。 A ：これまで学習した字形の整え方について、よく理解している。 これまで学習したことを生かして、字形を整えて書いている。 支援 ：1年間の学習内容や成果が確かめられるようにする。 字形の整え方の要点や筆使いなどを具体的に示すようにする。	B ：これまで学習したことを生かして、自分のめあてを選んでいる。 A ：これまで学習したことを生かして、自分のめあてを適切に選んでいる。 支援 ：教材文字と比べて批評することで、自分のめあてが見つけられるように支援する。	B ：これまで学習したことを生かして、自分のめあてを選んで書こうとしている。 硬筆の学習でも、字形に気をつけて書こうとする意識をもっている。 A ：これまで学習したことを生かして、自分のめあてを選び、積極的に書こうとしている。 常に字形に気をつけて書こうとする意識をもっている。 支援 ：1年間の学習事項や筆使いなどが確かめられるようにする。 書写の授業以外でも、字形に気をつけて書くよう呼びかける。

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習活動	学習指導要領の内容	評価規準		
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
適時		46	【知っておこう】 手紙 —学習発表会の案内の手紙	○手紙の形式を理解し、文字の大きさや行の中心に気をつけて書くことができる。	○教科書を見て、手紙の書き方と封筒の書き方について確かめる。	アイ	B：手紙の書き方について理解している。 A：手紙の書き方について、よく理解している。 支援：教科書の紙面を参照しながら、手紙の書式について確かめられるようにする。 封筒に対して文字が大きすぎたり小さすぎたりしのように、教科書を見ながら確かめられるようにする。		
		47～49	【書いて 伝え合おう】 新聞 —学級新聞を作ろう	○書写で学習した内容を、他教科での学習や日常生活にも生かしていく意欲をもつことができる。	○教科書の例を見て、読みやすい紙面構成の工夫を話し合い、記事の位置と大きさを決める。 ○今まで学習したことを振り返り、文字の大きさや配列について想起する。 ○記事の下書きをする。 ○筆記用具の効果について話し合い、適切な筆記用具を選択する。 ○新聞を作成する。	アイ	B：読みやすく書くための基準について理解している。 文字の大きさや配列に注意したり、筆記用具を工夫したりしている。 A：読みやすく書くための基準について、よく理解している。 文字の大きさや配列に注意したり、筆記用具を工夫したりして、読みやすく書き表している。 支援：配列は整っているか、筆記用具は効果的に使われているかなど、具体的な投げかけをする。 鉛筆で下書きをすることで、文字の大きさや配列のめやすになるようにする。	B：読みやすく書くための基準を意識して、新聞を見直している。 A：読みやすく書くための基準を意識して、新聞を見直したり工夫したりしている。 支援：読みやすく書くための基準について確かめられるようにする。	B：書写で学習した内容を、他教科での学習や日常生活にも生かしていく意欲をもっている。 ほかの学習場面でも、読みやすく書くために工夫していこうとする意識をもっている。 A：書写で学習した内容を、他教科での学習や日常生活にも進んで生かしていく意欲をもっている。 常に読みやすく書くために工夫していこうとする意識をもっている。 支援：読みやすい掲示物の例などを具体的に例示する。 書写の授業以外でも、相手の読みやすさを考えて書くよう呼びかける。
		52	【知っておこう】 メモ —ダム見学での聞き取りメモ	○書写で学習した内容を、他教科での学習や日常生活にも生かしていく意欲をもつことができる。	○教科書を見て、メモを取るときの書き方について確かめる。	アイ	B：メモの取り方について理解している。 A：メモの取り方について、よく理解している。 支援：教科書の紙面を参照しながら、メモの取り方について確かめられるようにする。		

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習活動	学習指導要領の内容	評価規準		
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
		57～60	【漢字表】 四年生で学習する漢字 三年生で学習した漢字	○3年生で学習した字形の整え方，筆順などを確かめることができる。 ○4年生で学習した字形の整え方，筆順などを確かめることができる。 ○巻末漢字表を活用した漢字の仲間分けの活動を行ったり，筆順をまちがえやすい漢字について確かめたりすることができる。	○筆順のきまりを確認する。 ○筆順に気をつける漢字を正しい筆順で書く。 ○文字の組み立て方の観点から，巻末漢字表の文字を分類し，印を書き込む。 ○友達と見せ合い，正しく書けたか相互評価する。	アイ	B ：同じ点画をもつ漢字，同じ組み立て方をもつ漢字など，漢字の仲間分けについて理解している。 同じ点画をもつ漢字，同じ組み立て方をもつ漢字など，漢字の仲間分けをしている。 A ：同じ点画をもつ漢字，同じ組み立て方をもつ漢字など，漢字の仲間分けについて，よく理解している。 同じ点画をもつ漢字，同じ組み立て方をもつ漢字など，漢字を正しく仲間分けしている。 支援 ：これまで学習した基本，点画などの内容を振り返り，確かめられるようにする。 どの文字のどの部分に着目して探すか，具体的に説明する。	B ：これまで学習した字形の整え方，筆順について考えている。 同じ点画をもつ漢字，同じ組み立て方をもつ漢字など，漢字の仲間分けについて考えている。 A ：これまで学習した字形の整え方，筆順について，よく考えている。 同じ点画をもつ漢字，同じ組み立て方をもつ漢字など，漢字の仲間分けについて判断している。 支援 ：教科書紙面を使って，正しい筆順や字形の整え方などが確かめられるようにする。 どの文字のどの部分に着目して探すか，具体的に説明する。	B ：巻末漢字表を使った漢字の仲間分けの活動や，漢字の成り立ちについて，関心を高めている。 書写以外の学習でも，筆順や字形に気をつけて書こうとする意識をもっている。 A ：巻末漢字表を使った漢字の仲間分けの活動や，漢字の成り立ちについて関心を高め，進んで取り組もうとしている。 常に筆順や字形に気をつけて書こうとする意識をもっている。 支援 ：巻末漢字表の使い方について確かめられるようにする。 書写の授業以外でも，気をつけるよう意識づける。
		61	【ひらがな表】 【かたかな表】 【筆記用具の特ちょう】	○平仮名，片仮名の筆順や字形を確かめることができる。	○「ひらがな表」「かたかな表」を見て，平仮名と片仮名の筆順や字形を確認する。 ○字形がうまくとれない文字について，重点的に練習する。	アイウ	B ：平仮名，片仮名の筆順や字形について理解している。 A ：平仮名，片仮名の筆順や字形について，よく理解している。 支援 ：ふだん，字形を整えにくい文字に関して，教科書を見ながら確認できるようにする。		B ：平仮名，片仮名の筆順や字形を確かめている。 常に平仮名，片仮名の筆順や字形を確かめようとする意識をもっている。 A ：平仮名，片仮名の筆順や字形を，積極的に確かめている。 常に平仮名，片仮名の筆順や字形を確かめて，丁寧に書こうとする意識をもっている。 支援 ：まちがえやすい筆順について，重点的に確かめられるように呼びかける。 書写の授業以外でも，常に気をつけるよう意識づける。

令和7年度版「小学 書写 五年」年間指導計画・評価計画(案)

「支援」は、「B」に至らない児童に対する支援・援助の方法例。

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習活動	学習指導要領の内容	評価規準		
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4月	2	表紙裏 ①・1	場面に合わせた書き方のくふう	○さまざまな場面における書き方の工夫について知り、興味・関心を高めることができる。	○「いろいろな書き方のくふう」を読み、場面に応じた書き方について考える。 ○文字の大きさや筆記用具の工夫など、観点を出しながら話し合う。	アウ	B ：読みやすく書く方法について話し合っている。 A ：文字の大きさや適切な筆記用具の工夫など、具体的な要点をあげながら話し合っている。 支援 ：文字の大きさや配列、筆記用具の工夫などについて、実際の掲示物を参照しながら理解できるようにする。	B ：さまざまな場面における書き方の工夫について考えている。 A ：場面に応じた書き方の工夫について、よく考えている。 支援 ：教科書の紙面を参照しながら、具体的な場面をあげて考えるようにする。	B ：さまざまな場面における書き方の工夫について知り、興味・関心を高めている。 A ：さまざまな場面における書き方の工夫について理解し、興味・関心を高めている。 常に相手意識をもって、読みやすさなどに気をつけて書こうとする意識をもっている。 支援 ：これまでに書いたものの「読みやすさ」がどうだったか問いかけることで、ふだんの生活でも読みやすさについて意識するよう呼びかける。
		2・3	五年生で学習すること 目次	○1年間の学習内容や学習の進め方について確認し、書写学習に対する意欲をもつことができる。	○教科書を参照して、学習のめあてを知る。 ○1年間の学習内容を知る。	アウ	B ：1年間のめあてや学習内容について知っている。 A ：1年間のめあてや学習内容について理解している。 支援 ：前学年で学習した内容をふまえながら説明する。		B ：1年間の学習内容を知り、書写学習に対する意欲をもっている。 A ：1年間の学習内容を知り、進んで書写学習に取り組む意欲をもっている。 支援 ：教科書紙面を参照しながら、1年間の学習内容と、学習したことを書写以外の学習にも生かしていくことについて説明する。
		4～8	1 はじめの学習 ■学習の進め方 ■点画の種類 ■姿勢と持ち方、用具のあつかい方	○用具の並べ方や扱い方について確かめることができる。 ○よい姿勢や筆の持ち方について確かめることができる。 ○常により姿勢やよい持ち方を意識して書くことができる。	○姿勢図を見て、用具の置き方、正しい姿勢、用具の持ち方を確かめる。 ○教科書の紙面を参照しながら、「点画の種類」と筆圧のかけ方について理解する。 ○ワークシートを活用して、「点画の種類」を書く。 ○自分の課題を見つけて練習する。 ○自分の課題とした「点画の種類」をまとめ書きする。 ○後片づけの仕方を確かめる。	アイウ	B ：用具の扱い方や姿勢、筆の持ち方、筆の扱い方を理解している。用具の扱い方や姿勢、筆の持ち方が身についている。 これまでに学習した「筆圧」や「点画の種類」について理解している。 A ：用具の扱い方や、よい姿勢、筆の持ち方で書くことを、よく理解している。 用具の扱い方や、姿勢、筆の持ち方が、よく身についている。 これまでに学習した「筆圧」や「点画の種類」について、よく理解している。	B ：用具の扱い方や姿勢、筆の持ち方、筆の扱い方の良しあしを考えている。 筆の穂の柔らかさや筆圧について考えている。 A ：用具の扱い方や姿勢、筆の持ち方、筆の扱い方の良しあしを判断できる。 筆の穂の柔らかさや筆圧について、よく考えている。	B ：用具の扱い方やよい姿勢、筆の持ち方、筆の扱い方を確かめようとしている。 ほかの書写場面でも、よい姿勢やよい持ち方で、筆の穂の柔らかさや筆圧、「点画の種類」を意識して書こうとする意識をもっている。 A ：用具の扱い方やよい姿勢、筆の持ち方、筆の扱い方を積極的に確かめようとしている。 常により姿勢やよい持ち方で、筆の穂の柔らかさや筆圧、「点画の種類」を意識して書こうとする意識をもっている。

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習活動	学習指導要領の内容	評価規準		
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
							支援 ：よい姿勢やよい筆の持ち方で書くことの大切さについて理解を促す。用具の扱い方やよい姿勢，筆の持ち方のポイントを具体的に説明する。教科書紙面を参照しながら，「点画の種類」と筆圧のかけ方について理解を促す。	支援 ：どこを正すと姿勢，筆の持ち方がよくなるかを，基準に照らして説明する。筆の状態を確認し，運筆がしやすい状態に整えるようにする。教科書紙面を参照しながら，筆圧を三段階でとらえて，力の入れ方と太さを確かめられるようにする。	支援 ：用具の配置図や姿勢図，持ち方の写真と比べて，自分でチェックできるようにする。書写の授業以外でも気をつけるように呼びかける。
5月	2～3	9・10	2 文字の組み立て方（中と外）『草原』	○中と外の部分の組み立て方を理解することができる。 ○中と外の部分の組み立て方に気をつけて，字形を整えて書くことができる。 ○中と外の部分の組み立て方を確かめて，硬筆で字形を整えて書くことができる。	○『草原』を硬筆や毛筆で試書する。 ○試書と教材文字を比べて話し合う。 ○教材文字の中の部分の外形を写し取り，動かしてみること，字形の整え方を確認する。 ○『草原』を硬筆や毛筆でまとめ書きする。 ○めあてに気をつけて書けたところを話し合う。 ○目標に沿って，自己評価をする。 ○巻末漢字表などから中と外の組み立て方でできているほかの漢字を探して書く。	アイウ	B ：中と外の部分の組み立て方について理解している。 中と外の部分の組み立て方に気をつけて書いている。 A ：中と外の部分の組み立て方についてよく理解し，字形を把握している。 中と外の部分の組み立て方に気をつけて，字形を整えて書いている。 支援 ：ほかの文字の例を見ることによって，中と外の部分の組み立て方を比べてみるができるようにする。	B ：中と外の部分の組み立て方について考えている。 A ：中と外の部分の組み立て方の良さを考えている。 支援 ：拡大文字などを使って，文字の組み立て方が確かめられるようにする。	B ：中と外の部分の組み立て方に気をつけて書こうとしている。 ほかの文字や硬筆でも，文字の組み立て方に気をつけて書こうとする意識をもっている。 A ：中と外の部分の組み立て方に気をつけて，字形を整えて書こうとしている。 常に文字の組み立て方に気をつけて書こうとする意識をもっている。 支援 ：中と外の部分の組み立て方に気をつけるよう呼びかける。 学習した以外の文字でも，文字の組み立て方に気をつけて書くよう呼びかける。
			【知りたい 文字の世界】 「活字」について知ろう	○活字と手書き文字の違いに気づき，文字に対する興味・関心を高めることができる。 ○日常生活の中で見られる活字と手書き文字について，話し合うことができる。	○活字の印刷物を持ち寄る。 ○手書き文字と活字の字形について，点画の形や接し方などを比較する。 ○手書き文字と活字は，それぞれどのような目的や場に適しているのか話し合う。 ○話し合った結果を発表する。	アウ	B ：手書き文字と活字の特徴がわかる。 A ：手書き文字と活字の特徴について，よく理解している。 支援 ：教科書紙面を使いながら説明をすることで理解を促す。	B ：手書き文字と活字の違いについて話し合い，考えている。 A ：手書き文字と活字の違いについて話し合い，よく考えている。 支援 ：教科書の例，または用意しておいた拡大文字例などを使い，手書き文字と活字の違いに気づくようにする。	B ：手書き文字と活字の違いに気づき，文字に関する関心を高めている。 手書き文字と活字の特徴について，積極的に調べようという意識をもっている。 A ：手書き文字と活字の違いに気づき，積極的に調べようとしている。 手書き文字と活字の特徴について意識し，使い分けようという意識をもっている。 支援 ：身のまわりにある手書き文字と活字の例を提示して，目的に応じた使い方に気づくようはたらきかける。
6月			3 文字の組み立て方（中と外）と、穂先の動き『道』	○「によう」と中の部分の組み立て方を理解することができる。 ○「によう」の筆使い（穂先の動きと筆圧）に気をつけて，字形を整えて書くことができる。	○『道』を硬筆や毛筆で試書する。 ○試書と教材文字を比べて話し合う。 ○「によう」と中の部分の組み立て方を理解し，練習する。 ○「によう」の筆使いを理解する。	アイウ	B ：「によう」と中の部分の組み立て方について理解している。 「によう」の中の部分の組み立て方に気をつけて書いている。 「によう」の筆使いに気をつけて書いている。	B ：「によう」と中の部分の組み立て方について考えている。	B ：「によう」と中の部分の組み立て方に気をつけて書こうとしている。 ほかの文字や硬筆でも，文字の組み立て方に気をつけて書こうとする意識をもっている。

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習活動	学習指導要領の内容	評価規準		
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	3	12・13		○中と外の部分の組み立て方を確かめて、硬筆で字形を整えて書くことができる。	○『道』を硬筆や毛筆でまとめ書きする。 ○めあてに気をつけて書けたところを話し合う。 ○目標に沿って、自己評価をする。 ○巻末漢字表などから中と外の組み立て方でできているほかの文字を探して書く。		A ：「によう」と中の部分の組み立て方についてよく理解し、字形を把握している。 「によう」の中の部分の組み立て方に気をつけて、字形を整えて書いている。 「によう」の筆使いに気をつけて、字形を整えて書いている。 支援 ：ほかの文字の例を見ることによって、中と外の部分の組み立て方を比べてみるができるようにする。「によう」の筆圧のかけ方が確認できるようにする。	A ：「によう」と中の部分の組み立て方の良しあしを考えている。 支援 ：拡大文字などを使って、文字の組み立て方が確かめられるようにする。	A ：「によう」と中の部分の組み立て方に気をつけて、字形を整えて書こうとしている。 常に文字の組み立て方に気をつけて書こうとする意識をもっている。 支援 ：「によう」と中の部分の組み立て方に気をつけるよう呼びかける。 学習した以外の文字でも、文字の組み立て方に気をつけて書くよう呼びかける。
		14	<硬筆の学習> 文字の組み立て方（中と外）	○中と外の部分の組み立て方を理解することができる。 ○中と外の部分の組み立て方に気をつけて、硬筆で字形を整えて書くことができる。	○中と外との組み立て方でできた教科書の教材文字を書く。 ○教科書の組み立て方の図を見ながら基準を理解する。 ○筆順と字形の関わりについても確認する。 ○中と外の組み立て方に気をつけて練習用紙に練習する。 ○目標と基準を確認しながらまとめ書きをする。	アウ	B ：中と外の部分の組み立て方について理解している。 中と外の部分の組み立て方に気をつけて書いている。 A ：中と外の部分の組み立て方についてよく理解し、字形を把握している。 中と外の部分の組み立て方に気をつけて、字形を整えて書いている。 支援 ：拡大文字や分解文字などを使って、組み立て方が視覚的に理解できるようにする。 構成要素である部首について意識できるようにする。	B ：中と外の部分の組み立て方について考えている。 A ：中と外の部分の組み立て方の良しあしを考えている。 支援 ：教科書の図版を参照し、組み立て方の順序について確かめられるようにする。	B ：中と外の部分の組み立て方に気をつけて、硬筆で書こうとしている。 ほかの文字でも、文字の組み立て方に気をつけて書こうとする意識をもっている。 A ：中と外の部分の組み立て方に気をつけて、字形を整えて硬筆で書こうとする。 常に文字の組み立て方に気をつけて書こうとする意欲をもっている。 支援 ：中と外の部分から構成されるさまざまな文字について調べることで、関心を高めるようにする。 学習した以外の文字でも、組み立て方に気をつけて書くよう呼びかける。
	1	15	【レッツ・トライ】 文化 —『竹取物語』を書く	○文字の大きさと行の中心に気をつけて書くことができる。	○教科書教材の『竹取物語』を試書する。 ○縦書きで配列を整えて書くための基準を理解する。 ○行の中心に線を引いたり、文字の外形を囲んだりして、基準をつかみやすくする。 ○練習用紙を選択して練習する。 ○試書とまとめ書きを比べて評価する。	アウ	B ：文字の大きさ、文字の中心を行の中心に揃えて書く方法について理解している。 文字の大きさと配列に気をつけて書いている。 A ：文字の大きさ、文字の中心を行の中心に揃えて書く方法について、よく理解している。 文字の大きさに気をつけて、配列を整えて書いている。 支援 ：補助線を引くことで、文字の位置が視覚的に確かめられるようにする。 中心線などの補助線を引いて、配列を確かめられるようにする。	B ：文字の大きさや、文字の中心を行の中心に揃えて書く方法について考えている。 A ：文字の大きさや、文字の中心を行の中心に揃えて書く方法について、よく考えている。 支援 ：試書と教材文字とを比較して、自分の課題がわかるようにする。	B ：文字の大きさと配列に気をつけて書く意欲をもっている。 書写以外の学習でも、文字の大きさや配列に気をつけて書こうとする意識をもっている。 A ：文字の大きさと配列に気をつけて書く意欲をもち、積極的に取り組んでいる。 常に文字の大きさや配列に気をつけて書こうとする意識をもっている。 支援 ：教科書を見ることで、今まで学習した配列のポイントについて確かめるようにする。 書写の授業以外でも、文字の大きさや配列に気をつけて書くよう呼びかける。

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習活動	学習指導要領の内容	評価規準		
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
7月	2～3	16・17	4 筆順と字形『成長』	○筆順と字形（点画の接し方など）との関係を理解することができる。 ○「横画」と「左はらい」の筆順と点画の接し方に気をつけて、字形を整えて書くことができる。 ○筆順と点画の接し方を確かめて、硬筆で字形を整えて書くことができる。	○『成長』を硬筆や毛筆で試書する。 ○試書と教材文字を比べて話し合う。 ○筆順と字形の関わりを確認し、練習する。 ○『成長』を硬筆や毛筆でまとめ書きする。 ○めあてに気をつけて書けたところを話し合う。 ○目標に沿って、自己評価をする。 ○巻末漢字表などから筆順と点画の接し方に気をつけるほかの文字を探して書く。	アイウ	B ：筆順と字形との関係について理解している。 「横画」と「左はらい」の筆順と点画の接し方に気をつけて書いている。 A ：筆順と字形との関係についてよく理解し、字形の整え方を把握している。 「横画」と「左はらい」の筆順と点画の接し方に気をつけて、字形を整えて書いている。 支援 ：ほかの文字の例を見ることによって、筆順と字形との関係を確かめられるようにする。 筆順と接し方について、具体的に説明できるようにする。	B ：筆順と字形との関係について考えている。 A ：筆順と字形との関係について、よく考えている。 支援 ：分解文字などを使って、筆順と字形との関係を確かめられるようにする。	B ：筆順と字形に気をつけて書こうとしている。 ほかの文字や硬筆でも、筆順と字形に気をつけて書こうとする意識をもっている。 A ：筆順と字形に気をつけて、字形を整えて書こうとしている。 常に筆順と字形に気をつけて書こうとする意識をもっている。 支援 ：点画どうしの接し方について説明することで、筆順と字形に対する関心を高める。 学習した以外の文字や硬筆でも、筆順と字形に気をつけて書くよう呼びかける。
		18	<硬筆の学習> 筆順と字形	○筆順の原則を理解することができる。 ○筆順に気をつけて、硬筆で字形を整えて書くことができる。	○教科書の上段で例示されている漢字を書き、筆順について近くの席の人と確かめ合う。 ○正しい筆順と、筆順の原則を理解する。 ○筆順に気をつけて、教科書の教材文字を書く。 ○筆順を誤りやすい『慣』『快』『初』『複』『集』『確』を書く。 ○筆順と字形に気をつけてまとめ書きをする。	アウ	B ：筆順の原則について理解している。 筆順と字形に気をつけて書いている。 A ：筆順の原則についてよく理解し、字形の整え方を把握している。 正しい筆順で、字形を整えて書いている。 支援 ：いろいろな文字の例にあてはめて考えることによって、筆順と字形の関係を確かめられるようにする。 字形が整っていない文字について、筆順を確かめられるようにする。	B ：筆順の原則について考えている。 A ：筆順の原則についてよく考えている。 なぜ筆順どおりに書くことが大切なのか、考えている。 支援 ：教科書の図版などを使って、筆順の原則が確かめられるようにする。	B ：筆順と字形に気をつけて、硬筆で書こうとしている。 ほかの書写場面でも、筆順の原則に従って、字形を整えて書こうとする意識をもっている。 A ：筆順と字形に気をつけて、字形を整えて硬筆で書こうとしている。 常に筆順の原則に従って、字形を整えて書こうとする意識をもっている。 支援 ：文字の中のどの部分に筆順の原則が使われているか説明することで、筆順に対する関心を高める。 書写の授業以外でも、筆順と字形に気をつけて書くよう呼びかける。
9月	1	19～21	【レッツ・トライ】 メモ ー工場見学のメモ	○さまざまな場面に適した書き方について、話し合うことができる。 ○メモの取り方を知り、他教科での学習活動や日常生活に生かす意欲をもつことができる。	○目的に合わせた書く速さについて話し合う。 ○速く書く場合の書き方として、メモの取り方について知る。 ○座った姿勢や立った姿勢で、ノートに速く書く。 ○わかったことや感想を書く。	アウ	B ：メモの取り方について理解している。 目的に応じた書き方について理解している。 メモの取り方を知り、立ったり座ったりしてメモを取っている。 A ：メモの取り方について、よく理解している。 目的に応じた書き方について、よく理解している。 メモの取り方を理解して、立ったり座ったりしてメモを取っている。	B ：さまざまな場面に適した書き方について考え、話し合っている。 A ：さまざまな場面に適した書き方についてよく考え、話し合っている。	B ：メモの取り方を知り、他教科での学習活動や日常生活に生かしていこうとする意欲をもっている。 書写以外の学習場面でも、目的に応じた書き方で書こうとする意識をもっている。 A ：メモの取り方を知り、他教科での学習活動や日常生活に進んで生かしていこうとする意欲をもっている。 常に目的に応じた書き方で書こうとする意識をもっている。

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習活動	学習指導要領の内容	評価規準		
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
9・10月							支援 ：教科書の紙面を参照しながら、書き方のポイントについて確認する。書きにくい場合は、筆圧や姿勢について確かめられるようにする。	支援 ：具体的な場面を例にあげて、目的に応じた書き方について投げかけるようにする。	支援 ：書写で学習した内容を、他教科で生かしていく学習であることを伝える。書写の授業以外でも、目的に応じた書き方で書くよう呼びかける。
	2	22・23	5 文字の大きさ（漢字どうし）『白雲』	○漢字どうしの形や大きさの違いを理解することができる。 ○漢字どうしのつり合いに気をつけて書くことができる。 ○漢字どうしの大きさを確かめて、硬筆で字形を整えて書くことができる。	○硬筆と毛筆で『白雲』を試書する。 ○試書と教材文字を比べて話し合う。 ○漢字どうしの大きさや形の違いについて理解し、練習する。 ○『白雲』をまとめ書きする。 ○目標に沿って、自己評価をする。 ○毛筆の効果を生かして硬筆で『白雲』を書く。	アイウ	B ：漢字どうしの形や大きさの違いについて理解している。 漢字どうしのつり合いに気をつけて書いている。 A ：漢字どうしの形や大きさの違いについてよく理解し、字形を把握している。 漢字どうしのつり合いに気をつけて、字形を整えてよく書いている。 支援 ：文字の外形を囲むことで、文字の大きさが視覚的に確かめられるようにする。 外形が書いてある練習用紙を使うことで、文字の大きさが確かめられるようにする。	B ：漢字どうしの形や大きさの違いについて考えている。 A ：漢字どうしの形や大きさの違いについて、よく考えている。 支援 ：試書と教材文字とを比較して、自分の課題がわかるようにする。	B ：漢字どうしのつり合いに気をつけて書こうとしている。 書写以外の学習場面でも、漢字どうしのつり合いに気をつけて書こうとする意識をもっている。 A ：漢字どうしのつり合いに気をつけて、字形を整えてよく書こうとしている。 常に漢字どうしのつり合いに気をつけて書こうとする意識をもっている。 支援 ：漢字どうしの大きさに着目するよう呼びかける。 書写の授業以外でも、漢字どうしのつり合いに気をつけて書くよう呼びかける。
	2～3	24・25	6 文字の大きさ（漢字と平仮名）『登る』	○漢字と仮名の形や大きさの違いを理解することができる。 ○漢字と仮名のつり合いに気をつけて書くことができる。 ○漢字と仮名の大きさを確かめて、硬筆で字形を整えて書くことができる。	○『登る』を硬筆や毛筆で試書する。 ○試書と教材文字を比べて話し合う。 ○漢字と仮名の形や大きさの違いについて確認し、練習する。 ○『登る』を硬筆や毛筆でをまとめ書きする。 ○めあてに気をつけて書けたところを話し合う。 ○目標に沿って、自己評価をする。 ○巻末漢字表などを見ながら、漢字と仮名を組み合わせた言葉を作って書く。	アイウ	B ：漢字と仮名のつり合いについて理解している。 漢字と仮名のつり合いに気をつけて書いている。 A ：、漢字と仮名のつり合いについてよく理解し、字形を把握している。 漢字と仮名のつり合いに気をつけて、配列よく書いている。 支援 ：文字の外形を囲むことで、文字の大きさが視覚的に確かめられるようにする。 外形が書いてある練習用紙を使うことで、文字の大きさが確かめられるようにする。	B ：文字の形や大きさの違いについて考えている。 A ：文字の形や大きさの違いについて、よく考えている。 支援 ：それぞれの教材文字は、大きさや形がどう変わるのか、同じ課題の友達と考えることができるようにする。	B ：漢字と仮名のつり合いに気をつけて書こうとしている。 書写以外の学習場面でも、漢字どうしのつり合いに気をつけて書こうとする意識をもっている。 A ：漢字と仮名のつり合いに気をつけて、字配りよく書こうとしている。 常に漢字どうしのつり合いに気をつけて書こうとする意識をもっている。 支援 ：自分の課題はどのようなところにあるか、前時を振り返り確かめられるようにする。
	適時	26	【知りたい 文字の世界】平仮名のもとになる漢字	○平仮名のもとになる漢字を知り、文字に対する興味・関心を高めることができる。	○教科書で例示された漢字を見て、どんな平仮名ができるか話し合う。 ○平仮名の字源を調べる。 ○平仮名の字源についてグループで紹介し合い、発表する。	アウ	B ：平仮名の字源について理解している。 A ：平仮名の字源について、よく理解している。 支援 ：漢字をくずした文字を実際に書いてみることで、字形の変化を感じられるようにする。		B ：ほかの平仮名についても、字源について関心をもち調べている。 A ：ほかの平仮名についても、字源について関心をもち、積極的に調べている。 支援 ：ほかの平仮名の字源や片仮名の字源を紹介することで、関心を高めるようにする。

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習活動	学習指導要領の内容	評価規準		
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
10・11月	3	27～29	7 穂先の動きと、線のつながり『あこがれ』	○穂先の動きと線のつながりについて理解することができる。 ○用紙全体に対する文字の大きさに気をつけて、行の中心をそろえて書くことができる。 ○線のつながりを確かめて、硬筆で字形を整えて書くことができる。	○『あこがれ』を硬筆や毛筆で試書する。 ○試書と教材文字を比べて話し合う。 ○平仮名の特徴や字源について確認する。 ○穂先の動きと、線と線のつながりに気をつけて練習する。 ○『あこがれ』を硬筆や毛筆でまとめ書きする。 ○めあてに気をつけて書けたところを話し合う。 ○目標に沿って、自己評価をする。 ○毛筆の効果を生かして硬筆で『あこがれ』『ふれあい』を書く。	アイウ	B ：穂先の動きと、線と線のつながりについて理解している。 穂先の動きとつながりに気をつけて書いている。 A ：穂先の動きと、線と線のつながりについて、よく理解している。 穂先の動きと、線と線とのつながりに、よく気をつけて書いている。 支援 ：書いている様子を友だちと見合いながら、次につながる穂先の動きについて確かめられるようにする。	B ：穂先の動きと、線と線のつながりについて考えている。 A ：穂先の動きと、線と線のつながりについて、よく考えている。 支援 ：朱墨や薄墨を使って、穂先の向きや通り道が確かめられるようにする。	B ：穂先の動きと、線と線のつながりについて関心をもっている。 ほかの文字や硬筆でも、次の線へのつながりに気をつけて書こうとする意識をもっている。 A ：穂先の動きと、線と線のつながりについて関心をもち、積極的に書こうとしている。 常に次の線へのつながりに気をつけて書こうとする意識をもっている。 支援 ：次の線へつながる穂先の動きについて、教科書の図版を使いながら説明する。 学習した以外の文字でも、次の線へのつながりに気をつけて書くよう呼びかける。
	2	30～33	【レッツ・トライ】ポスター—委員会のポスター	○用紙全体に対する文字の大きさや余白のとり方に気をつけて、配列を整えて書くことができる。 ○読み手にわかりやすく効果的に伝えるための、筆記用具の工夫について理解することができる。 ○書写で学習した内容を、学校生活に生かしていく意欲をもち、丁寧に書くことができる。	○必要事項を入れて、簡単な掲示物を書いてみる。 ○教材例を見ながら基準を理解する。 ○用紙を選び、レイアウトを考える。 ○書く目的に応じた筆記用具を選択する。 ○自分のイメージを広げて練習する。 ○配置の補助線を引くなど工夫して、実際の掲示物をまとめ書きする。 ○掲示物を見せ合い、考えを深める。	アウ	B ：読みやすく書くための基準について理解している。 文字の大きさ、行の中心、余白、行頭の位置に気をつけて書いている。 A ：読みやすく書くための基準について、よく理解している。 文字の大きさ、行の中心、余白、行頭の位置に気をつけて、配列よく書いている。 支援 ：配列は整っているか、筆記用具は効果的に使われているかなど、具体的な投げかけをする。 鉛筆で下書きをすることで、文字の大きさや配列のめやすになるようにする。	B ：読みやすく書くための基準を確認し、自分のめあてを設定している。 A ：読みやすく書くための基準を確認し、自分のめあてを設定し、解決方法を選択している。 支援 ：読みやすく書くための基準について確かめられるようにする。	B ：書写で学習した内容を、他教科での学習や日常生活にも生かしていく意欲をもっている。 A ：書写で学習した内容を、他教科での学習や日常生活にも積極的に生かしていく意識をもっている。 支援 ：読みやすい掲示物の例などを具体的に例示する。 書写の授業以外でも、相手の読みやすさや効果を考えて書くよう呼びかける。
	2	34・35	8 用紙に対する文字の大きさと配列年賀状	○用紙全体に対する文字の大きさに気をつけて、行の中心をそろえて書くことができる。 ○学習したことを生かして、年賀状を書くことができる。	○教科書の「考えよう」の年賀状の例を見比べて話し合う。 ○基準を確認する。 ○実際に出す相手を想定して、年賀状の裏面を書く練習をする。 ○横書きの年賀状の書き方や、年賀状の書き方のルールを知る。 ○基準を確認し、まとめ書きをする。 ○自己評価・相互評価をする。 ○「賀正」以外の年賀状の賀詞について知る。	アイウ	B ：用紙に対する文字の大きさと配列について理解している。 用紙に対する文字の大きさと配列に気をつけて書いている。 A ：用紙に対する文字の大きさと配列について、よく理解している。 用紙に対する適切な文字の大きさで、文字の中心を行の中心に揃えて書いている。 支援 ：用紙には、鉛筆で薄く中心線を入れたり、文字の大きさの目安となる印をつけたりしてもよいことを助言する。	B ：用紙に対する文字の適切な大きさと配列について考えている。 A ：用紙に対する適切な文字の大きさと配列について、よく考えている。 支援 ：用紙に対する文字数を考えて文字の大きさを決めるよう助言する。	B ：ほかの文字や硬筆でも、用紙全体に対する文字の大きさと配列に気をつけて書こうとする意識をもっている。 A ：常に用紙全体に対する文字の大きさや配列に気をつけて書こうとする意識をもっている。 支援 ：実際のはがきの例を提示することで、文字の大きさや配列に気をつけて書くことへの意欲を高められるようにする。

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習活動	学習指導要領の内容	評価規準		
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
12・1月	4～5	44～48	書きぞめ 『初春』 『世界の国』	○床の上や立って書くときの姿勢、筆の持ち方に気をつけて、これまでの学習を生かして書くことを理解することができる。 ○文字の大きさや組み立て方に気をつけて、字形を整えて書くことができる。 ○文字の中心に気をつけて書くことができる。	○『初春』（または『世界の国』）を試書する。 ○書きぞめの姿勢を知る。 ○試書と教材文字を比べ、基準を理解する。 ○基本点画に気をつけて練習する。 ○試書とまとめ書きを比べ、自己評価する。	アイウ	B ：書きぞめの姿勢や持ち方、文字の大きさや組み立て方、文字の中心について理解している。 これまで学習した文字の大きさや組み立て方、文字の中心に気をつけて書いている。 A ：書きぞめの姿勢や持ち方、文字の大きさや組み立て方、文字の中心について、よく理解している。 これまで学習した文字の大きさや組み立て方、文字の中心に気をつけて、配列よく書いている。 支援 ：今まで学習した内容について、教科書を確認しながら理解できるようにする。 書きぞめ用紙を縦半分に折り、中心を意識できるようにする。 外形を考えることで、文字の大きさについて確かめられるようにする。	B ：書きぞめの姿勢や筆の持ち方について考えている。 A ：書きぞめの姿勢や筆の持ち方の良しあしを考えている。 支援 ：姿勢図や筆の持ち方の図版などを使って、確かめられるようにする。	B ：書きぞめに関心をもち、書こうとしている。 ほかの学習の書写場面でも、よい姿勢や持ち方、文字の大きさや組み立て方、文字の中心に気をつけて書こうとする意識をもっている。 A ：書きぞめに関心をもち、積極的に書こうとしている。 常に姿勢や持ち方、文字の大きさや組み立て方、文字の中心に気をつけて、配列よく書こうとする意識をもっている。 支援 ：書きぞめの由来を説明し、書きぞめについて関心が高まるようにする。 書写の授業以外の書写場面でも、姿勢や持ち方、文字の大きさや組み立て方、文字の中心に気をつけて書くよう呼びかける。
	適時	36・37	【書いて 伝え合おう】 はがき 一年賀状、絵はがきを書こう	○書写で学習した内容を、他教科での学習や日常生活にも生かしていく意欲をもつことができる。	○教科書の例を見て、はがきを書く際の筆記用具や紙面構成の工夫を話し合う。 ○今まで学習したことを振り返り、文字の大きさや配列について想起する。 ○はがきの下書きをする。 ○文字の大きさや位置、効果的な筆記用具の選択を考えて、はがきを書く。 ○自己評価、相互評価をする。	アイウ	B ：相手に伝わりやすい効果的な書き方について理解している。 文字の大きさや配列に注意したり、筆記用具を工夫したりしている。 A ：読みやすく書くための基準について、よく理解している。 文字の大きさや配列に注意したり、筆記用具を工夫したりして、読みやすく書き表している。 支援 ：配列は整っているか、筆記用具は効果的に使われているかなど、具体的な投げかけをする。 鉛筆で下書きをすることで、文字の大きさや配列のめやすになるようにする。	B ：読みやすく書くための基準を意識して、はがきを見直している。 A ：読みやすく書くための基準を意識して、はがきを見直したり工夫したりしている。 支援 ：読みやすく書くための基準について確かめられるようにする。	B ：書写で学習した内容を、他教科での学習や日常生活にも生かしていく意欲をもっている。 ほかの学習場面でも、読みやすく書くために工夫していこうとする意識をもっている。 A ：書写で学習した内容を、他教科での学習や日常生活にも進んで生かしていく意欲をもっている。 常に読みやすく書くために工夫していこうとする意識をもっている。 支援 ：読みやすい掲示物の例などを具体的に例示する。 書写の授業以外でも、相手の読みやすさを考えて書くよう呼びかける。

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習活動	学習指導要領の内容	評価規準		
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
2・3月	4～5	38～41	9 学習のまとめ『考える子』	○これまで学習したことを生かして、自分のめあてを選んで、意欲をもって書くことができる。 ○自分の選んだめあてに気をつけて書くことができる。 ○学習したことを生かして、硬筆で書いて確かめることができる。	○『考える子』を硬筆や毛筆で試書する。 ○これまで学習したことの中から自分のめあてを選ぶ。 ○漢字と平仮名の大きさや配列について理解する。 ○自分のめあてに向かって練習する。 ○『考える子』を硬筆や毛筆でまとめ書きし、試書と比べて達成度を話し合う。 ○自分のめあてが達成できなかった場合は、既習事項を振り返る。（毛筆） ○縦罫線の用紙に『雪わたり』の一部を試書する。 ○中心に線を引いて自己批評する。 ○文字の大きさや配列に気をつけて、まとめ書きをする。（硬筆）	アイウ	B ：これまで学習した文字の大きさや字形の整え方について理解している。 これまで学習したことを生かして、漢字と平仮名の大きさに気をつけて書いている。 A ：これまで学習した文字の大きさや字形の整え方について、よく理解している。 これまで学習したことを生かして、漢字と平仮名の大きさに気をつけて、配列よく書いている。 支援 ：1年間の学習内容や成果が確かめられるようにする。 配列よく書くための要点について具体的に示すようにする。	B ：これまで学習したことを生かして、自分のめあてを選んでいる。 A ：これまで学習したことを生かして、自分のめあてを適切に選んでいる。 支援 ：『考える子』を試書することで、自分のめあてが見つけられるように支援する。	B ：これまで学習したことを生かして、自分のめあてを選んで書こうとしている。 硬筆の学習でも、漢字と平仮名の大きさに気をつけて、配列よく書こうとする意識をもっている。 A ：これまで学習したことを生かして、自分のめあてを選び、積極的に書こうとしている。 常に漢字と平仮名の大きさに気をつけて、配列よく書こうとする意識をもっている。 支援 ：1年間の学習内容や筆使いなどが確かめられるようにする。 書写の授業以外でも、文字の大きさや配列に気をつけて書くよう呼びかける。
		42・43	【知っておこう】手紙 一工場見学のお礼の手紙	○書写で学習した内容を、他教科での学習や日常生活にも生かしていく意欲をもつことができる。	○教科書を見て、手紙の書き方と封筒の書き方について確かめる。	アウ	B ：手紙の書き方について理解している。 A ：手紙の書き方について、よく理解している。 支援 ：教科書の紙面を参照しながら、手紙の書式について確かめられるようにする。 封筒に対して文字が大きすぎたり小さすぎたりしのように、教科書を見ながら確かめられるようにする。		

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習活動	学習指導要領の内容	評価規準		
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	適時	49～52	【漢字表】 五年生で学習する漢字 四年生で学習した漢字	○4年生で学習した字形の整え方などを確かめることができる。 ○5年生で学習した筆使いや筆順、組み立て方などを確かめることができる。 ○漢字表を活用した、漢字の仲間分けの活動を行ったり、筆順をまちがえやすい漢字について確かめたりすることができる。	○筆順のきまりを確認する。 ○筆順に気をつける漢字を正しい筆順で書く。 ○文字の組み立て方の観点から、漢字表の文字を分類し、印を書きこむ。 ○友達と見せ合い、正しく書けたか相互評価する。	アウ	B ：同じ組み立て方の構成をもつ漢字を探すなど、漢字の仲間分けについて理解している。 同じ組み立て方の構成をもつ漢字を探すなど、漢字の仲間分けをしている。 A ：同じ組み立て方の構成をもつ漢字を探すなど、漢字の仲間分けについて、よく理解している。 同じ組み立て方の構成をもつ漢字を探すなど、漢字を正しく仲間分けしている。 支援 ：今まで学習した文字の組み立て方などの内容を振り返り、確かめられるようにする。 辞典などを使って、漢字の部分について調べるようにする。	B ：これまで学習した字形の整え方、筆順について考えている。 同じ組み立て方の構成をもつ漢字を探すなど、漢字の仲間分けについて考えている。 A ：これまで学習した字形の整え方、筆順について、よく考えている。 同じ組み立て方の構成をもつ漢字を探すなど、漢字の仲間分けについて判断している。 支援 ：教科書紙面を使って、正しい筆順や字形の整え方などが確かめられるようにする。 どの文字のどの部分に着目して探すか、具体的に説明する。	B ：漢字表を使った、漢字の仲間分けの活動や、漢字の成り立ちについて、関心を高めている。 ほかの学習場面でも、筆順や字形に気をつけて書こうとする意識をもっている。 A ：漢字表を使った、漢字の仲間分けの活動や、漢字の成り立ちについて関心を高め、積極的に取り組もうとしている。 常に筆順や字形に気をつけて書こうとする意識をもっている。 支援 ：漢字表の使い方について確かめられるようにする。 書写の授業以外でも、気をつけるよう意識づける。
		53	【平仮名表】 【すみ・すずり・紙の作り方】	○平仮名の字形や筆順を確認することができる。	○「ひらがな表」「かたかな表」を見て、平仮名と片仮名の筆順や字形を確認する。 ○字形がうまくとれない文字について、重点的に練習する。	アイ	B ：平仮名、片仮名の筆順や字形について理解している。 A ：平仮名、片仮名の筆順や字形について、よく理解している。 支援 ：ふだん、字形を整えにくい文字に関して、教科書を見ながら確認できるようにする。		B ：平仮名、片仮名の筆順や字形を確かめている。 常に平仮名、片仮名の筆順や字形を確かめようとする意識をもっている。 A ：平仮名、片仮名の筆順や字形を、積極的に確かめている。 常に平仮名、片仮名の筆順や字形を確かめて、丁寧に書こうとする意識をもっている。 支援 ：まちがえやすい筆順について、重点的に確かめられるように呼びかける。 書写の授業以外でも、常に気をつけるよう意識づける。

令和7年度版「小学 書写 六年」年間指導計画・評価計画（案）

「支援」は、「B」に至らない児童に対する支援・援助の方法例。

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習活動	学習指導要領の内容	評価規準		
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4月	2	表紙裏 ①・1	文字の旅	○日本の文字の歴史について知り、興味・関心を高めることができる。	○「文字の旅」を読み、知っていることや興味をもったことを話し合い、日本の文字の歴史を知る。	アウ	B ：日本の文字の歴史について知っている。 A ：日本の文字の歴史について理解している。 支援 ：これから社会科で学習する内容と関連づけて説明するようにする。話し合いの観点として、文字の歴史に関することで知っていることがあるか、問いかけるようにする。	B ：文字が日本に伝わって現代に至るまでの流れについて考えている。 A ：文字が日本に伝わって現代に至るまでの流れについて、よく考えている。 支援 ：教科書紙面を見ながら、全体の流れについて確かめられるようにする。	B ：日本の文字の歴史について関心をもち、調べていこうという意識をもっている。 A ：日本の文字の歴史について関心をもち、積極的に調べていこうという意識をもっている。 支援 ：教科書の図版について、見たことのあるものはあるか問いかける。他教科との関連を知らせることで、関心がもてるようにはたらきかける。
		2・3	六年生で学習すること 目次	○1年間の学習内容や学習の進め方について確認し、書写学習に対する意欲をもつことができる。	○教科書を参照して、学習のめあてを知る。 ○1年間の学習内容を知る。	アウ	B ：1年間のめあてや学習内容について知っている。 A ：1年間のめあてや学習内容について理解している。 支援 ：前学年で学習した内容をふまえながら説明する。		B ：1年間の学習内容を知り、書写学習に対する意欲をもっている。 A ：1年間の学習内容を知り、進んで書写学習に取り組む意欲をもっている。 支援 ：教科書紙面を参照しながら、1年間の学習内容と、学習したことを書写以外の学習にも生かしていくことについて説明する。
		4～8	1 はじめの学習 ■学習の進め方 ■点画の種類 ■姿勢と持ち方、用具のあつかい方	○用具の並べ方や扱い方について確かめることができる。 ○よい姿勢や筆の持ち方について確かめることができる。 ○常により姿勢やよい持ち方を意識して書くことができる。	○姿勢図を見て、用具の置き方、正しい姿勢、用具の持ち方を確かめる。 ○教科書の紙面を参照しながら、「点画の種類」と筆圧のかけ方について理解する。 ○ワークシートを活用して、「点画の種類」を書く。 ○自分の課題を見つけて練習する。 ○自分の課題とした「点画の種類」をまとめ書きする。 ○後片づけの仕方を確かめる。	アイウ	B ：用具の扱い方や姿勢、筆の持ち方、筆の扱い方を理解している。用具の扱い方や姿勢、筆の持ち方が身についている。これまでに学習した「筆圧」や「点画の種類」について理解している。 A ：用具の扱い方や、よい姿勢、筆の持ち方で書くことを、よく理解している。用具の扱い方や、姿勢、筆の持ち方が、よく身についている。これまでに学習した「筆圧」や「点画の種類」について、よく理解している。	B ：用具の扱い方や姿勢、筆の持ち方、筆の扱い方の良しあしを考えている。筆の穂の柔らかさや筆圧について考えている。 A ：用具の扱い方や姿勢、筆の持ち方、筆の扱い方の良しあしを判断できる。筆の穂の柔らかさや筆圧について、よく考えている。	B ：用具の扱い方やよい姿勢、筆の持ち方、筆の扱い方を確かめようとしている。ほかの書写場面でも、よい姿勢やよい持ち方で、筆の穂の柔らかさや筆圧、「点画の種類」を意識して書こうとする意識をもっている。 A ：用具の扱い方やよい姿勢、筆の持ち方、筆の扱い方を積極的に確かめようとしている。常により姿勢やよい持ち方で、筆の穂の柔らかさや筆圧、「点画の種類」を意識して書こうとする意識をもっている。

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習活動	学習指導要領の内容	評価規準		
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
							支援 ：よい姿勢やよい筆の持ち方で書くことの大切さについて理解を促す。用具の扱い方やよい姿勢、筆の持ち方のポイントを具体的に説明する。教科書紙面を参照しながら、「点画の種類」と筆圧のかけ方について理解を促す。	支援 ：どこを正すと姿勢、筆の持ち方がよくなるかを、基準に照らして説明する。筆の状態を確認し、運筆がしやすい状態に整えるようにする。教科書紙面を参照しながら、筆圧を三段階でとらえて、力の入れ方と太さを確かめられるようにする。	支援 ：用具の配置図や姿勢図、持ち方の写真と比べて、自分でチェックできるようにする。書写の授業以外でも気をつけるように呼びかける。
5・6月	3～4	9・10	2 文字の大きさと配列『歩む』	○文字の大きさと配列を理解することができる。 ○文字の大きさと配列に気をつけて、字形を整えて書くことができる。 ○文字の大きさと配列を確かめて、硬筆で字形を整えて書くことができる。	○『歩む』を硬筆や毛筆で試書する。 ○試書と教材文字を比べて話し合う。 ○漢字と仮名の形や大きさの違いと配列の整え方について確認し、練習する。 ○『歩む』を硬筆や毛筆でまとめ書きする。 ○めあてに気をつけて書けたところを話し合う。 ○目標に沿って、自己評価をする。 ○巻末漢字表などを見ながら、漢字と仮名を組み合わせた言葉を作って書く。	アイウ	B ：用紙に対する文字の大きさと配列について理解している。用紙に対する文字の大きさと配列に気をつけて書いている。 A ：用紙に対する文字の大きさと配列について、よく理解している。用紙に対する適切な文字の大きさと、文字の中心を行の中心に揃えて書いている。 支援 ：練習用紙には、鉛筆で薄く中心線を入れたり、文字の大きさの目安となる印をつけたりしてもよいことを助言する。	B ：用紙に対する文字の適切な大きさと配列について考えている。 A ：用紙に対する適切な文字の大きさと配列について、よく考えている。 支援 ：教科書の文字例から、つり合いがとれていない文字の理由について問いかける。	B ：ほかの文字や硬筆でも、用紙全体に対する文字の大きさや配列に気をつけて書こうとする意識をもっている。 A ：常に用紙全体に対する文字の大きさや配列に気をつけて書こうとする意識をもっている。 支援 ：漢字と仮名を組み合わせた文章の例を提示することで、文字の大きさや配列に気をつけて書くことへの意欲を高められるようにする。
		11	【レッツ・トライ】メモ一話し合いメモ	○目的にふさわしい書く速さについて理解することができる。 ○許容される書き方について知り、関心をもつことができる。	○書く場面について具体例をあげて、目的に応じてどのような速さで書けばよいか話し合う。 ○限られた時間のなかでメモを取るときの工夫を話し合う。 ○許容される書き方について知る。 ○許容される書き方で、実際に書いてみる。	アウ	B ：目的に応じた書き方について理解している。許容される書き方について知っている。 A ：目的に応じた書き方について、よく理解している。許容される書き方について理解している。 支援 ：許容される書き方について、使用すると便利な場面や、使用を控えた方がよい場面について、確かめられるようにする。	B ：さまざまな場面に適した書き方について、話し合っている。 A ：さまざまな場面に適した書き方について、積極的に話し合っている。 支援 ：具体的な場面を例にあげて、目的に応じた書き方について投げかけるようにする。	B ：メモの取り方を知り、他教科での学習活動や日常生活に生かしていこうとする意欲をもっている。許容される書き方を知り、関心をもっている。 A ：メモの取り方を知り、他教科での学習活動や日常生活に積極的に生かしていこうとする意欲をもっている。許容される書き方について関心をもち、積極的に調べている。 支援 ：書写で学習した内容を、他教科で生かしていく学習であることを伝える。許容される書き方について、教科書を参照しながら点画の変化した形を確かめられるようにする。

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習活動	学習指導要領の内容	評価規準		
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
6・7月	3	12・13	3 文字の組み立て方（三つの部分）『湖』	○三つの部分の組み立て方を理解することができる。 ○三つの部分の組み立て方に気をつけて、字形を整えて書くことができる。 ○三つの部分の組み立て方を確かめて、硬筆で字形を整えて書くことができる。	○『湖』を硬筆や毛筆で試書する。 ○試書と教材文字を比べて話し合う。 ○三つの部分の組み立て方について確認し、練習する。 ○『湖』を硬筆や毛筆でまとめ書きする。 ○めあてに気をつけて書けたところを話し合う。 ○目標に沿って、自己評価をする。 ○巻末漢字表などから三つの部分の組み立て方に気をつける漢字を探して書く。	アイウ	B ：三つの部分の幅の違いと点画の形の変化について理解している。 三つの部分の組み立て方に気をつけて書いている。 A ：三つの部分の幅の違いと点画の形の変化についてよく理解し、字形を把握している。 三つの部分の組み立て方に気をつけて、字形を整えて書いている。 支援 ：ほかの文字の例を見ることによって、点画のゆずり合いを比べてみることができるようにする。 点画のゆずり合いが確認できるようにする。	B ：三つの部分の組み立て方について考えている。 A ：三つの部分の組み立て方の良しあしを考えている。 支援 ：拡大文字などを使って、文字の組み立て方が確かめられるようにする。	B ：三つの部分の組み立て方に気をつけて書こうとしている。 ほかの文字や硬筆でも、文字の組み立て方に気をつけて書こうとする意識をもっている。 A ：三つの部分の組み立て方に気をつけて、字形を整えて書こうとしている。 常に文字の組み立て方に気をつけて書こうとする意識をもっている。 支援 ：三つの部分の組み立て方に気をつけるよう呼びかける。 学習した以外の文字でも、文字の組み立て方に気をつけて書くよう呼びかける。
		14	<硬筆の学習> 文字の組み立て方（左右、上下、中と外）	○左右、上下、中と外の組み立て方について理解することができる。 ○左右、上下、中と外の組み立て方に気をつけて、硬筆で字形を整えて書くことができる。	○左右、上下、中と外の組み立て方でできた教科書の教材文字を書く。 ○教科書の組み立て方の図を見ながら基準を理解する。 ○筆順と字形の関わりについても確認する。 ○左右、上下、中と外の組み立て方に気をつけて練習用紙に練習する。 ○目標と基準を確認しながらまとめ書きをする。	アウ	B ：左右、上下、中と外の組み立て方について理解している。 左右、上下、中と外の組み立て方に気をつけて書いている。 A ：左右、上下、中と外の組み立て方についてよく理解し、字形を把握している。 左右、上下、中と外の組み立て方に気をつけて、字形を整えて書いている。 支援 ：拡大文字や分解文字などを使って、組み立て方が視覚的に理解できるようにする。	B ：左右、上下、中と外の部分の組み立て方について考えている。 A ：左右、上下、中と外の組み立て方の良しあしを考えている。 支援 ：教科書の図版を参照し、組み立て方について確かめられるようにする。	B ：左右、上下、中と外の組み立て方に気をつけて、硬筆で書こうとしている。 A ：左右、上下、中と外の組み立て方に気をつけて、字形を整えて硬筆で書こうとしてる。 支援 ：左右、上下、中と外から構成されるさまざまな文字について調べることで、関心を高めるようにする。

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習活動	学習指導要領の内容	評価規準		
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	1	15	【レッツ・トライ】 ノート —国語のノート	○学習内容が理解しやすいノートのまとめ方を理解することができる。 ○書写で学習した内容を，他教科での学習に生かしていく意欲をもち，工夫して書くことができる。	○学級内でまとめ方がわかりやすいノートの例を数点用意して，工夫されている点を話し合う。 ○話し合った内容を発表し，学級で共有する。 ○学習したことを生かして，次時のノートをとる。	アウ	B ：学習内容が理解しやすいノートのまとめ方についてわかっている。 学習内容が理解しやすいように工夫してノートをまとめている。 A ：学習内容が理解しやすいノートのまとめ方について，よく理解している。 学習内容が理解しやすいように，よく工夫してノートをまとめている。 支援 ：箇条書きで書く際の行頭のあけ方や余白のとり方など，具体的な視点をあげて呼びかける。 自分の普段のノートを見直してみても，わかりにくい点はないか確かめるようにする。	B ：学習内容が理解しやすいノートのまとめ方について考えている。 A ：学習内容が理解しやすいノートのまとめ方について，よく考えている。 支援 ：どのように書いたら内容が理解しやすいか，具体的な書き方について例示するようにする。	B ：書写以外の学習場面でも，わかりやすい書き表し方を工夫して書こうとしている。 A ：書写で学習した内容を，他教科での学習に生かし，積極的に書こうとする意欲をもっている。 支援 ：書写で学習した内容を，他教科で生かしていく学習であることを伝える。
	1	16・17	【レッツ・トライ】 リーフレット —校外学習のリーフレット	○用紙全体に対する文字の大きさや余白のとり方に気をつけて，配列を整えて書くことができる。 ○読み手にわかりやすく効果的に伝えるための，筆記用具の工夫について理解することができる。 ○書写で学習した内容を，学校生活に生かしていく意欲をもち，丁寧に書くことができる。	○必要事項を入れて，リーフレットの下書きを書いてみる。 ○教材例を見ながら基準を理解する。 ○折り方とレイアウトを考える。 ○書く目的に応じた筆記用具を選択する。 ○相手に内容が伝わりやすい表し方を考えて練習する。 ○配置の補助線を引くなど工夫して，実際のリーフレットをまとめ書きする。 ○リーフレットを見せ合い，考えを深める。	アウ	B ：読みやすく書くための基準について理解している。 文字の大きさ，行の中心，余白，行頭の位置に気をつけて書いている。 A ：読みやすく書くための基準について，よく理解している。 文字の大きさ，行の中心，余白，行頭の位置に気をつけて，配列よく書いている。 支援 ：配列は整っているか，筆記用具は効果的に使われているかなど，具体的な投げかけをする。 鉛筆で下書きをすることで，文字の大きさや配列のめやすになるようにする。	B ：読みやすく書くための基準を確認し，自分のめあてを設定している。 A ：読みやすく書くための基準を確認し，自分のめあてを設定し，解決方法を選択している。 支援 ：読みやすく書くための基準について確かめられるようにする。	B ：書写で学習した内容を，他教科での学習や日常生活にも生かしていく意欲をもっている。 A ：書写で学習した内容を，他教科での学習や日常生活にも積極的に生かしていく意識をもっている。 支援 ：読みやすい掲示物の例などを具体的に例示する。 書写の授業以外でも，相手の読みやすさや効果を考えて書くよう呼びかける。
	適時	18	【知りたい 文字の世界】 文字の成り立ち	○身のまわりで見られる文字を知り，興味・関心を高めることができる。 ○平仮名のもとになる漢字を知り，文字に対する興味・関心を高めることができる。	○現代でも見られる昔に作られた文字や，文字は何のためにあるかについて考え，グループで話し合う。 ○昔に作られた文字について調べる。 ○調べたり話し合ったりした結果を発表する。	アウ			B ：文字の成り立ちについて関心をもち調べている。 A ：文字の成り立ちについて関心をもち，積極的に調べている。 支援 ：ほかの平仮名の字源や片仮名の字源を紹介することで，関心を高めるようにする。

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習活動	学習指導要領の内容	評価規準		
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
9月	3	19～21	4 文字の大きさと配列、点画のつながり『思いやり』	○文字の大きさと配列、点画のつながりについて理解することができる。 ○文字の大きさと配列、点画のつながりに気をつけて書くことができる。 ○文字の大きさと配列、点画のつながりを確かめて、硬筆で字形を整えて書くことができる。	○硬筆と毛筆で『思いやり』を試書する。 ○試書と教材文字を比べて話し合う。 ○教科書を参考にしながら、文字の大きさと配列、点画のつながりについて確認し、練習する。 ○『思いやり』をまとめ書きする。 ○目標に沿って、自己評価をする。 ○学習の成果を生かして、硬筆で『思いやり』『はずむ心』を書く。	アイウ	B ：点画のつながりについて理解している。 配列のポイントについて理解している。 点画のつながりに気をつけて書いている。 用紙に対する文字の大きさに気をつけて、文字の中心を行の中心に揃えて書いている。 A ：点画のつながりについて、よく理解している。 配列のポイントについて、よく理解している。 点画のつながりに、よく気をつけて書いている。 用紙全体に対する文字の大きさに気をつけて、文字の中心を行の中心を揃えて配列よく書いている。 支援 ：書いている様子を友だちと見合いながら、次につながる穂先の動きについて確かめられるようにする。 中心線が書いてある練習用紙を使うことで、配列が確かめられるようにする。	B ：点画のつながりについて考えている。 用紙に対する文字の大きさと配列について考えている。 A ：点画のつながりについて、よく考えている。 用紙全体に対する文字の大きさについて、よく考えている。 支援 ：朱墨や薄墨を使って、穂先の向きや通り道が確かめられるようにする。	B ：点画のつながりについて関心をもっている。 配列に気をつけて書こうとしている。 A ：点画のつながりや用紙に対する文字の大きさや配列に気をつけて、積極的に書こうとしている。 常に点画のつながりや用紙に対する文字の大きさ、配列に気をつけて書こうとする意識をもっている。 支援 ：次の線へつながる穂先の動きについて、教科書の図版を使いながら説明する。 学習した以外の文字でも、点画のつながりや配列に気をつけて書くよう呼びかける。
10月	1	22・23	【レッツ・トライ】文化―『枕草子』を書く	○文字の大きさと配列に気をつけて書くことができる。	○縦罫線の用紙に『春はあけぼの』を硬筆で試書する。 ○縦書きで配列を整えて書くための基準を理解する。 ○中心線が入ったものや、行頭に破線が入った練習用紙などを選択して練習する。 ○試書とまとめ書きを比べて評価する。 ○いろいろな筆記用具で、『枕草子』の好きな部分を選んで書く。	アウ	B ：文字の大きさと配列について理解している。 文字の大きさと配列に気をつけて書いている。 A ：文字の大きさと配列についてよく理解し、字形を把握している。 行の中心と余白のとり方に気をつけて、配列を整えて書いている。 支援 ：文字の外形を囲むことで、文字の大きさを視覚的に確かめられるようにする。 中心線などの補助線を引いて、配列を確かめられるようにする。	B ：文字の大きさと配列について考えている。 A ：文字の大きさと配列について、よく考えている。 支援 ：試書と教材文字とを比較して、自分の課題がわかるようにする。	B ：伝統的言語文化の教材を書く意欲をもっている。 文字の大きさと配列に気をつけて書こうとしている。 書写以外の学習場面でも、文字の大きさや配列に気をつけて書こうとする意識をもっている。 A ：伝統的言語文化の教材を積極的に書こうとしている。 文字の大きさと配列に気をつけて、積極的に書こうとしている。 常に文字の大きさや配列に気をつけて書こうとする意識をもっている。 支援 ：まだ学習していない漢字については、筆順と字形を確認するよう呼びかける。 教科書の教材は、配列の整え方がどのようなになっているか、確かめられるようにする。

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習活動	学習指導要領の内容	評価規準		
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	適時	24・25	【知りたい 文字の世界】 生活と文字	○日常生活の中で見られるさまざまな文字を探し、文字に対する関心を高めることができる。 ○日常生活の中で見られるさまざまな文字の印象について、話し合うことができる。	○事前に用意しておいた文字資料を提示する。 ○教室内の「文字」を探す。 ○集めた文字資料の中から、任意の数点をグループごとに選択して話し合う。 ○「手書き文字」「活字」それぞれの特徴や効果についてまとめる。	アウ	B ：日常生活の中で見られるさまざまな文字について知っている。 A ：日常生活の中で見られるさまざまな文字について理解している。 支援 ：教科書紙面を使いながら説明をすることで理解を促す。	B ：日常生活の中で見られるさまざまな文字について話し合い、考えている。 A ：日常生活の中で見られるさまざまな文字について積極的に話し合い、よく考えている。 支援 ：文字に関する発問を用意しておくなど、話し合いの観点を示すようにする。	B ：日常生活の中で見られるさまざまな文字について、調べようとする意識をもっている。 A ：日常生活の中で見られるさまざまな文字について、積極的に調べようとする意識をもっている。 支援 ：教科書の例、または用意しておいた文字資料を提示し、興味・関心を高めるようにする。
	3～4	26・27	5 文字の大きさと配列、点画のつながり（小筆） 『この道や行く人なしに秋の暮』	○文字の大きさと配列、点画のつながりについて理解することができる。 ○文字の大きさと配列、点画のつながりに気をつけて書くことができる。	○『この道や行く人なしに秋の暮』を硬筆や毛筆で試書する。 ○試書と教材文字を比べて話し合う。 ○教科書を参考にしながら、文字の大きさと配列、点画のつながりについて確認し、練習する。 ○『この道や行く人なしに秋の暮』を硬筆や毛筆でまとめ書きする。 ○目標に沿って、自己評価をする。	アイウ	B ：配列のポイントについて理解している。 点画のつながりについて理解している。 用紙全体に対する文字の大きさに気をつけて、行の中心をそろえて書いている。 点画のつながりに気をつけて書いている。 A ：配列のポイントについて、よく理解している。 点画のつながりについて、よく理解している。 用紙全体に対する文字の大きさに気をつけて、行の中心をそろえて配列よく書いている。 点画のつながりに、よく気をつけて書いている。 支援 ：書いている様子を友だちと見せ合いながら、次につながる穂先の動きについて確かめられるようにする。 外形が書いてある練習用紙を使うことで、配列が確かめられるようにする。	B ：用紙全体に対する文字の大きさについて考えている。 点画のつながりについて考えている。 A ：用紙全体に対する文字の大きさについて、よく考えている。 点画のつながりについて、よく考えている。 支援 ：筆意に着目するよう促し、穂先の動きが確かめられるようにする。	B ：配列や点画のつながりについて関心をもっている。 ほかの文字や硬筆でも、用紙全体に対する文字の大きさや点画のつながりに気をつけて書こうとする意識をもっている。 A ：配列や点画のつながりについて関心をもち、積極的に書こうとしている。 常に用紙全体に対する文字の大きさや点画のつながりに気をつけて書こうとする意識をもっている。 支援 ：次の線へつながる穂先の動きについて、教科書の図版を使いながら説明する。 学習した以外の文字でも、点画のつながりや配列に気をつけて書くよう呼びかける。

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習活動	学習指導要領の内容	評価規準		
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
11月	2	28・29	【レッツ・トライ】 小筆 —小筆を生かして書く	○小筆を学習や生活の中で生かす活動に、意欲的に取り組むことができる。 ○筆使いに気をつけて、小筆で書くことができる。 ○行の中心や余白のとり方に気をつけて書くことができる。	○教科書教材を小筆で書く。 ○小筆の持ち方・執筆方法を教科書の写真を参考に確認する。 ○基本点画の基準を確認する。 ○目標と基準を確認しながらまとめ書きをする。 ○学習の成果を生かして、小筆で年賀状や俳句を書く。	アイウ	B ：小筆の持ち方や筆使い、配列について理解している。 筆使いに気をつけて、小筆で書いている。 配列や余白のとり方に気をつけて書いている。 A ：小筆の持ち方や筆使い、配列についてよく理解し、字形を把握している。 筆使いに気をつけて、字形を整えて小筆で書いている。 余白のとり方に気をつけて、配列よく書いている。 支援 ：教科書の教材文字を参照し、小筆の筆使いが確かめられるようにする。 小筆の持ち方や筆使い、字配りの要点が視覚的に理解できるようにする。	B ：小筆の持ち方や筆使い、配列を考えている。 A ：小筆の持ち方や筆使い、配列の良さしを考えている。 支援 ：小筆の持ち方の図を使って、持ち方を確かめられるようにする。	B ：小筆を学習や生活の中で生かす活動に、意欲的に取り組もうとしている。 日常生活においても、小筆の持ち方や筆使い、配列に気をつけて書こうとする意識をもっている。 A ：小筆を学習や生活の中で生かす活動に、積極的に取り組もうとしている。 常に小筆で字配りよく書こうとする意識をもっている。 支援 ：小筆の持ち方や筆使い、配列に気をつけるよう呼びかける。 日常生活におけるいろいろな機会でも、小筆を活用して、配列よく書くよう呼びかける。
11・12月	4～5	30～33	■好きな言葉を書く （『実現』『夢』『仲間』『友情』）	○好きな言葉を選び、自分のめあてを設定し、めあてに気をつけて書くことができる。 ○6年間で学習したことを生かして、意欲的に取り組むことができる。 ○毛筆で選んで書いた言葉を、硬筆で書いて確かめることができる。	○教科書の教材から自分の好きな言葉を選び、毛筆で試書する。 ○試書と教材文字を比べて話し合い、自分のめあてを決める。 ○これまでの学習を振り返りながら、グループごとに基準を明確にする。 ○練習用紙を選択したり自作したりして練習する。 ○基準に気をつけてまとめ書きをして、試書と比べる。	アイウ	B ：これまで学習した配列や字形の整え方について理解している。 自分で選んだめあてに沿ったポイントに気をつけて書いている。 A ：これまで学習した配列や字形の整え方について、よく理解している。 自分で選んだめあてに沿ったポイントに気をつけて、配列よく書いている。 支援 ：6年間の学習内容や成果が確かめられるようにする。 それぞれの教材における要点について、個別に支援するようにする。	B ：6年間で学習したことを生かして、自分のめあてを選んでいる。 A ：6年間で学習したことを生かして、自分のめあてを適切に選んでいる。 支援 ：選んだ教材を試書することで、自分のめあてが見つけれられるように支援する。	B ：6年間で学習したことを生かして、自分のめあてを設定し、書こうとしている。 ほかの学習場面においても、字形の整え方や文字の大きさに気をつけて、配列よく書こうとする意識をもっている。 A ：6年間で学習したことを生かして、自分のめあてを設定し、積極的に書こうとしている。 常に字形や文字の大きさに気をつけて、配列よく書こうとする意識をもっている。 支援 ：自分が書いてみたい言葉を選び、その教材におけるポイントを確かめられるようにする。 書写の授業以外でも、字形や文字の大きさ、配列に気をつけて書くよう呼びかける。
12・1月			書きぞめ 『理想』 『伝統を守る』	○床の上や立って書くときの姿勢、筆の持ち方に気をつけて、これまでの学習を生かして書くことを理解することができる。 ○文字の大きさや組み立て方に気をつけて、字形を整	○『理想』（または『伝統を守る』）を試書する。 ○書きぞめの姿勢を知る。 ○試書と教材文字を比べ、基準を理解する。 ○基本点画に気をつけて練習する。 ○試書とまとめ書きを比べ、	アイウ	B ：書きぞめの姿勢や筆の持ち方、文字の大きさや組み立て方、文字の中心について理解している。 これまで学習した文字の大きさや組み立て方、文字の中心に気をつけて書いている。	B ：書きぞめの姿勢や筆の持ち方について考えている。	B ：書きぞめに関心をもち、書こうとしている。 ほかの学習の書写場面でも、よい姿勢や筆の持ち方、文字の大きさや組み立て方、文字の中心に気をつけて書こうとする意識をもっている。

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習活動	学習指導要領の内容	評価規準		
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	4～5	43, 45 ～48		えて書くことができる。 ○文字の中心に気をつけて書くことができる。	自己評価する。		A ：書きぞめの姿勢や筆の持ち方，文字の大きさや組み立て方，文字の中心について，よく理解している。 これまで学習した文字の大きさや組み立て方，文字の中心に気をつけて，配列よく書いている。 支援 ：教科書で学習した文字の組み立て方のポイントについて振り返ることで，確かめられるようにする。 書きぞめ用紙を縦半分に折り，中心を意識できるようにする。 外形を考えることで，文字の大きさについて確かめられるようにする。	A ：書きぞめの姿勢や筆の持ち方の良しあしを考えている。 支援 ：姿勢図や筆の持ち方の図版などを使って，確かめられるようにする。	A ：書きぞめに関心をもち，積極的に書こうとしている。 常に姿勢や筆の持ち方，文字の大きさや組み立て方，文字の中心に気をつけて書こうとする意識をもっている。
		44	はってん ー「行書」	○中学校で学習する行書の書き方について，興味・関心を高めることができる。	○身のまわりにある行書で書かれた文字を用意しておき，行書への関心を高める。 ○教科書の楷書と行書で書かれた『春』の文字を比較して，違いについて話し合う。 ○楷書と行書で『春』を書く。	アイウ			B ：中学校で学習する行書について，関心を高めている。 A ：中学校で学習する行書について関心を高め，積極的に学習に取り組もうとしている。 支援 ：身のまわりで見られる行書で書かれた文字を例示して，関心を高める。
2・3月	3～4	34・35	6 学習のまとめ 『旅立ちの時』	○これまで学習したことを生かして，自分のめあてを選んで，意欲をもって書くことができる。 ○文字の大きさに気をつけて書くことができる。 ○学習したことを生かして，硬筆で書いて確かめることができる。	○『旅立ちの時』を硬筆や毛筆で試書する。 ○これまで学習したことの中から自分のめあてを選ぶ。 ○漢字と平仮名の大きさや配列について理解する。 ○自分のめあてに向かって練習する。 ○『旅立ちの時』を硬筆や毛筆でまとめ書きし，試書と比べて達成度を話し合う。 ○自分のめあてが達成できなかった場合は，既習事項を振り返る。	アイウ	B ：これまで学習した内容について理解している。 これまで学習したことを生かして，自分の課題に気をつけて書いている。 文字の大きさや配列に気をつけて書いている。 A ：これまで学習した内容について，よく理解している。 これまで学習したことを生かして，自分の課題に気をつけて，字形を整えて書いている。 文字の大きさや配列に気をつけて，丁寧に書いている。 支援 ：学級全体で意見を出し合い，1年間の学習内容や成果が確かめられるようにする。 中心線を引いたり，文字の外形を囲んだりして，具体的に示すようにする。	B ：1年間の学習を振り返り，自分の課題について考えている。 文字の大きさや配列に気をつけて書こうとしている。 A ：1年間の学習を振り返り，自分の課題について，よく考えている。 文字の大きさや配列に気をつけて，字形を整えて書こうとしている。 支援 ：これまで学習したまとめ書きを見直すようにする。 文字の大きさや配列を整えるための留意事項について確かめられるようにする。	B ：1年間の学習を振り返り，自分の学習の成果を確かめようとしている。 ほかの学習場面でも，文字の大きさや配列など，これまで学習したことに気をつけて書こうとする意識をもっている。 A ：1年間の学習を振り返り，自分の学習の成果を積極的に確かめようとしている。 常に文字の大きさや配列など，これまで学習したことに気をつけて，丁寧に書こうとする意識をもっている。 支援 ：これまで学習した教科書紙面を参照し，学習内容を確かめられるようにする。 書写の授業以外でも，文字の大きさや，配列，字形などに気をつけて書くよう呼びかける。
			六年間で学習したこと	○文字の形や大きさ，組み立て方などに気をつけて，字形を整えて書くことができる。 ○縦罫線の用紙に，配列に気をつけて書くことができ	○教材文字を見ながら1年間で学習したことを振り返る。 ○縦罫線の用紙に教科書の教材文を試書する。 ○中心に線を引いて自己批正する。 ○文字の大きさや配列に気を	アイウ	B ：これまで学習した内容について理解している。 文字の大きさや配列について理解している。 A ：これまで学習した内容について理解している。 文字の大きさや配列について理解している。	B ：6年間の学習を振り返り，自分の課題について考えている。 文字の大きさや配列に気をつけて書こうとしている。	B ：6年間の学習を振り返り，自分の学習の成果を確かめようとしている。

指導月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習活動	学習指導要領の内容	評価規準		
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
		36・37		る。 ○ 6 年間の学習を振り返り，自分の学習の成果を確かめることができる。	つけて，まとめ書きをする。		A ：これまで学習した内容について，よく理解している。 文字の大きさや配列について，よく理解している。 支援 ：学級全体で意見を出し合い，1 年間の学習内容や成果が確かめられるようにする。	A ：1 年間の学習を振り返り，自分の課題について，よく考えている。 文字の大きさや配列に気をつけて，字形を整えて書こうとしている。 支援 ：これまで学習したまとめ書きを見直すようにする。 文字の大きさや配列を整えるための留意事項について確かめられるようにする。	A ：1 年間の学習を振り返り，自分の学習の成果を進んで確かめようとしている。 支援 ：これまで学習した教科書紙面を参照し，学習内容が確かめられるようにする。
		38・39	【知っておこう】 手紙 —お願いの手紙—	○書写で学習した内容を，他教科での学習や日常生活にも生かしていく意欲をもつことができる。	○教科書を見て，手紙の書き方と封筒の書き方について確かめる。	アウ	B ：手紙の書き方について理解している。 A ：手紙の書き方について，よく理解している。 支援 ：教科書の紙面を参照しながら，手紙の書式について確かめられるようにする。 封筒に対して文字が大きすぎたり小さすぎたりしのように，教科書を見ながら確かめられるようにする。		
		40～42	【書いて 伝え合おう】 卒業制作 —思い出に残る言葉を書こう—	○書写で学習した内容を，他教科での学習や日常生活にも生かしていく意欲をもつことができる。	○筆記用具の特徴を知る。 ○これまで学習した，紙面に対する文字のおさめ方について確認し，基準を理解する。 ○自分の決めた文字を入れて練習する。 ○補助線を入れるなど，自分の表現方法に合った練習用紙を作成する。 ○友達と交換し，成果を認め合う。	アイウ	B ：効果的に書くための基準について理解している。 文字の大きさ，行の中心，余白，行頭の位置に気をつけて書いてる。 A ：効果的に書くための基準について，よく理解している。 文字の大きさ，行の中心，余白，行頭の位置に気をつけて，配列よく書いてる。 支援 ：配列は整っているか，筆記用具は効果的に使われているかなど，具体的な投げかけをする。 鉛筆で下書きをすることで，文字の大きさや配列のめやすになるようにする。	B ：効果的に書くための基準を確認し，自分のめあてを設定している。 A ：効果的に書くための基準を確認し，自分のめあてを設定し，解決方法を選択している。 支援 ：効果的に書くための基準について確かめられるようにする。	B ：ほかの学習場面でも，配列に気をつけて書くことを，その目的や効果を考えて成果物に生かそうとしている。 A ：書写で学習した内容を，他教科での学習や日常生活にも積極的に生かしていく意欲をもっている。 常に書く目的や効果を考えて，書写で学習した内容を日常生活に生かそうとしている。 支援 ：昨年の 6 年生が制作した成果物例などを具体的に例示する。 書写の授業以外でも，相手の読みやすさや効果を考えて書くよう呼びかける。
	適時	49～52	【漢字表】 六年生で学習する漢字 五年生で学習した漢字	○ 5 年生で学習した字形の整え方などを確かめることができる。 ○ 6 年生で学習した筆使いや筆順，組み立て方などを確かめることができる。 ○巻末漢字表を活用した，漢字の仲間分けの活動を行ったり，筆順がまちがえやすい漢字について確かめたりすることができる。	○筆順のきまりを確認する。 ○筆順に気をつける漢字を正しい筆順で書く。 ○文字の組み立て方の観点から，巻末漢字表の文字を分類し，印を書き込む。 ○友達と見せ合い，正しく書けたか相互評価する。	アウ	B ：同じ組み立て方の構成をもつ漢字を探すなど，漢字の仲間分けについて理解している。 同じ組み立て方の構成をもつ漢字を探すなど，漢字の仲間分けをしている。 A ：同じ組み立て方の構成をもつ漢字を探すなど，漢字の仲間分けについて，よく理解している。 同じ組み立て方の構成をもつ漢字を探すなど，漢字を正しく仲間分けしてい	B ：これまで学習した字形の整え方，筆順について考えている。 同じ組み立て方の構成をもつ漢字を探すなど，漢字の仲間分けについて考えている。 A ：これまで学習した字形の整え方，筆順について，よく考えている。 同じ組み立て方の構成をもつ漢字を探すなど，漢字の仲間分けについて判断している。	B ：巻末漢字表を使った仲間分けの活動や漢字の成り立ちについて，関心を高めている。 ほかの学習場面でも，筆順や字形に気をつけて書こうとする意識をもっている。 A ：巻末漢字表を使った，漢字の仲間分けの活動や漢字の成り立ちについて関心を高め，積極的に取り組もうとしている。 常に筆順や字形に気をつけて書こうと

指導 月	時数	頁	教材名	学習指導のねらい	学習活動	学習指導 要領の 内容	評 価 規 準		
							知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
							る。 支援：今まで学習した文字の組み立て方などの内容を振り返り，確かめられるようにする。 辞典などを使って，漢字の部分について調べるようにする。	支援：教科書紙面を使って，正しい筆順や字形の整え方などが確かめられるようにする。 どの文字のどの部分に着目して探すか，具体的に説明する。	する意識をもっている。 支援：巻末漢字表の使い方について確かめられるようにする。 書写の授業以外でも，気をつけるよう意識づける。
		53	【平仮名表】 【消しゴム印の作り方】	○平仮名の字形や筆順について確かめることができる。	○「平仮名表」を見て，平仮名の筆順や字形を確認する。 ○字形がうまくとれない文字について，重点的に練習する。	アウ	B：平仮名の筆順や字形について理解している。 A：平仮名の筆順や字形について，よく理解している。 支援：ふだん，字形を整えにくい文字に関して，教科書を見ながら確認できるようにする。		B：平仮名の筆順や字形を確かめている。 常に平仮名の筆順や字形を確かめようとする意識をもっている。 A：平仮名の筆順や字形を，積極的に確かめている。 常に平仮名の筆順や字形を確かめて，丁寧に書こうとする意識をもっている。 支援：まちがえやすい筆順について，重点的に確かめるように呼びかける。 書写の授業以外でも，常に気をつけるよう意識づける。